

# 十勝毎日新聞（1920-1939年）掲載 アイヌ関係記事：目録と紹介（1）

Headlines and content of Ainu-related Articles from  
the TOKACHI MAINICHI SHINBUN (Tokachi Daily Newspaper) 1920~1939

小川 正人<sup>\*1</sup>・山田 伸一<sup>\*2</sup>（編）

Masahito OGAWA and Shin'ichi YAMADA

## はじめに

ここに掲載する目録は、『十勝毎日新聞』の戦前発行分（1945年以前分、原紙の残存状況等により実質的には1920~39年）の紙面を調査し、その中のアイヌ関係記事の見出しをまとめたものである。目録に収録した記事は約1,000件になる。

併せて、その中から主な記事の本文を紹介する。記事紹介については、紙幅の都合等により、今回は1920年から25年までに限定し、1926年以降は次回に掲載する予定である。

編者の二人は、近代アイヌ史に関する基礎的資料の調査と整理に関心を注いできた<sup>\*1</sup>。この目録も、このような課題意識のもと、北海道内諸地域の新聞記事調査の一環として行なってきた作業の成果報告である。以下に、この目録の概要ならびに目録・記事紹介についての編者の考えを記して解題に代える。

## 1. 目録のあらまし

1-1（アイヌ史の資料としての新聞記事） 新聞報道は、社会の様々な動向を反映し記録する点で、近現代史の重要な資料の一つだと考えている。新聞報道には後述するような様々な限界があることは避けがたいとしても、近代アイヌ史の文献資料には公文書などの記録が乏しいだけに、こうしたメディアの記事を丹念に拾っていくことで得られるものは多いだろう。

アイヌ史に関する新聞記事目録として、これまで刊行された中で最もまとまっているのは『アイヌ史 資料編4 近現代史料（2）』（北海道ウタリ協会、1989年）が掲載しているものである。ただ、同書は全道規模の新聞を主な対象にしており、道内各地域で刊行された地域紙の調査は残されている課題の一つである。

1-2（十勝の特徴） この目録の対象となった1920年代から30年代には、近代アイヌ史においても様々な出来事が起こっているが、特に十勝では、アイヌ自身の活動においても、また行政の施策についても、特徴ある動きを見ることができる。すなわち、「北海道旧土人保護法」（1899年、以下「保護法」と略記）の制定後約20年をへて、政府・道庁においては1922~24年頃における「互助組合」の設置、1930年頃における特設アイヌ学校の廃止や1937年「保護法」改正への動きなどがあり、その中で道庁河西支庁（のち十勝支庁）は、帯広町役場から河西支庁、のち本庁へと転任し「保護法」改正事務を担当した役人・喜多章明の存在とあいまって、これらの施策の動向や特徴を検討するうえで重要な位置を占めている。またこうした行政の動きと並行して、自らの生活条件の改善や精神修養などを掲げたアイヌの活動が各地で起こり、それらは十勝内部やさらには全道規模でのアイヌの組織

※1 北海道立アイヌ民族文化研究センター研究職員

※2 北海道開拓記念館学芸員

化へとつながっていく。アイヌの有志が喜多章明の関与のもとに結成した「旭明社」の活動や、幕別の吉田菊太郎による「白人古潭矯風会」などがその例である。同時代では他の地域でも様々な活動が見られ、それらの性格や主張の内容の特徴を検討することも含めて、十勝での様々な動きを把握することは近代アイヌ史にとって主要な課題の一つである。

編者たちもこれまでにこうした動向に関する調査を行ってきたが<sup>\*2</sup>、その中でもしばしば、『十勝毎日新聞』の記事を活用させていただいた。今回掲載する記事目録は、このような作業の蓄積の結果でもある。

1-3（十勝毎日新聞の意義） 十勝地方における地元発行の新聞の嚆矢は1898年創刊の『帯広新聞』とされるが、管見の範囲では、戦前分について現在まとまって原資料を確認できる地域紙は『十勝毎日新聞』を除けばほとんどなく、『十勝新聞』の1930年代分が北海道大学附属図書館で確認できる程度である。このような中で、同紙は創刊（1919年9月帯広新聞社創設、11月旬刊『帯広新聞』の刊行を開始、1920年『十勝毎日新聞』と改題、日刊となる）当時から戦時下に道内の各新聞が強制的に統合され『北海道新聞』となる1942年までの原紙が、一部に欠落はあるものの、おおむねまとまって残存しており、この点では十勝の地域紙の中で群を抜いている。

編者たちが、十勝関係の新聞資料の調査収集にあたって、先ず着手すべきものとして同紙を考えたのはこのような理由によっている。

1-4（収録した範囲） 『十勝毎日新聞』の原紙を最もまとまって所蔵しているのは同社資料室であり、戦前分では1920年5月から1939年8月までがある。この間にはしばしば欠号が見られる。その中で欠落が1ヶ月以上にわたる主な期間を示せば次のようである。

- ・1922年7月
- ・1925年1月～3月
- ・1926年2月1日～3月1日
- ・1928年4月22日～6月30日
- ・同年8月1日～12月3日
- ・1931年3月2日～4月1日
- ・1939年1月2日～3月8日
- ・同年7月8日～31日

この他では北海道大学附属図書館が1933年5月から1937年3月までを所蔵している（途中一部欠あり）。所蔵している期間は十勝毎日新聞社資料室と重なっているが、同社の欠号を埋める可能性がある。また帯広市図書館が所蔵し現在整理中の吉田巖遺稿資料の中には多数の新聞記事のスクラップがあり、その中に同紙も含まれている。調査の結果、このスクラップには、点数は少ないながらも、上記十勝毎日新聞社所蔵分の欠号を埋めるものがあることがわかった。

今回の目録は、十勝毎日新聞資料室所蔵分の悉皆調査を基本とし、これに市立図書館所蔵スクラップのうち一部の調査結果を補って作成した。北海道大学附属図書館所蔵分および市立図書館所蔵分の残りの調査は今後機会を改めて補足したい。

## 2. 利用にあたって

2-1（収録する対象となる記事の問題） この目録に収めた記事は、編者らが紙面を見ていく中で関係する記事だと判断したことにもとづき選択したものである。どのような目録であれ何らかの選択を行なうのは当然のことではあるが、アイヌ関係の記事目録の場合、特に次の2点については予め注意すべきこととして述べておきたい。

ひとつは、記事にならないものは目録にも載らない、ということである。ある事柄やテーマについて、本来ならばアイヌ民族に関して言及があるべきことなのにそれが無い、という場合は記事目録にも載らないことになる。

もうひとつは、記事が表立ってアイヌに関係することだと述べていない場合は選択からもれる場合があることである。例えばある人の活動を報じた記事について、それが「アイヌの〇〇氏」と書いていれば関係記事と認定される。逆に、そうした明示を欠いた記事は外れることになる。広く地域や国政全般に関わるような記事も同様である。“関係記事”という範囲は、当時も現在も、こうしたレッテル貼りのような視線と無縁ではあり得ない。目録は、それを基盤にして様々な調査研究や考察が行なわれる素材となるだけに、利用にあたって、目録自体がそもそもこうした性格を帯びている点には留意されたい。

2-2 (目録から割愛した記事について) 収集した記事のうち、犯罪記事など個人のプライバシー等の問題を考慮すべきと判断した記事は原則として目録には掲載しなかった。収集した記事は全部で約1,100件、削除した記事は114件であるから全体の約1割にあたる。この割合が当時の新聞記事全般と比べてどうなのか、編者らには判断の材料が未だ不足しているが、同紙を含め様々な新聞記事を通覧してきた実感として、プライバシーに差し障るような内容の記事に、ことさらに「アイヌ」「旧土人」といったレッテルを貼ったものが相当に多いことは、当時の報道の特徴として指摘しておくべきかと思う。

2-3 (記事の言葉使いや観点について) 上記のことを含めて、当時の新聞報道には、現在の社会通念等から見れば批判されるものを多く含んでいる。しかしこの目録では、それらもまた歴史の記録として直視すべきものと考え、上記のプライバシーの問題のような点を除き、「土人」「旧土人」「酋長」といった用語や、アイヌ民族に対する蔑視や偏見や憐憫を伴った論調なども、時代の風潮を示す資料として、そのまま掲載した。

### 3. その 他

3-1 (今後の課題) 既に述べたとおり、この目録は近代アイヌ史の資料調査・整理という大きな目標のもとでの作業の一環である。ここでは、この目録に関わる範囲で今後の編者らが考えている今後の課題を記しておく。

この目録の対象である戦前期の『十勝毎日新聞』については、北海道大学附属図書館等で若干の補足調査の余地が残っており、それらはなるべく早いうちに果たしたいと考えている。また、同時代の他紙や他の文献(公文書や吉田巖の日記など)によって、さらには体験記録の集積によって、記事の内容を補強あるいは検証する作業も必要だろう。

十勝の新聞資料ということからすれば、まとまりとしては僅かではあっても、『十勝新聞』などの記事調査や、例えば1901年に釧路で創刊された『北東日報』(のち『釧路新聞』)は早い時期から十勝版に一面を充てており、その記事調査は十勝発行紙の欠落を埋める材料となり得るだろう。

3-2 (原資料の確認) この目録に収めた記事のスクラップは、帯広百年記念館、帯広市図書館郷土資料室、および北海道立アイヌ民族文化研究センターで所蔵する。ただしその利用にあたっては、十勝毎日新聞社資料室等の原資料所蔵先に連絡されたい。

3-3 (作業の分担) 記事調査・翻刻は山田・小川が分担して行なった。「はじめに」の文章は小川が執筆し、両者の協議をへて小川が浄書した。

3-4 (謝辞) この目録のための資料調査にあたっては、十勝毎日新聞社資料室ならびに帯広市図書館郷土資料室に幾度も御世話になった。記して感謝する。特に十勝毎日新聞社には、ほんらい内部利用のためのものである資料室のマイクロフィルムの閲覧について、そして目録・記事翻刻の公刊に際して、便宜をはかっていただいた。自社の過去の記録の公刊を諒解して下さったことと併せて、深く

感謝する次第である。

また目録の公開にあたって、その地域で公開したいという編者らの希望を容れて掲載を許可していただいた帯広百年記念館、特に資料閲覧の段階から投稿の計画、編集の段階まで御世話していただいた同館学芸員内田祐一氏に感謝したい。

## [凡 例]

- 記事目録は、記事の日付、掲載面、執筆者、見出し、記事の分量、備考の順に掲載した。
- 『十勝毎日新聞』は夕刊紙であるため、新聞の発行は日付の前日である。
- 見出しは、改行を「/」で表した。ただし、一部を省略している。
- 記事の分量は、あくまでおおよその目安としてアルファベットにより表すこととし、10行程度までを「A」、10～30行程度を「B」、それ以上を「C」とし、さらに1面の半分以上にわたる場合を「D」とした。
- 備考欄に「市図」と記したものは帯広市図書館所蔵のスクラップによるもの、その他は全て十勝毎日新聞社資料室所蔵のマイクロフィルムによるものである。なおスクラップについては、日付はスクラップ台紙への書き込みによる。備考欄には、このほか、記事の掲載面の情報や写真掲載の情報（写真掲載の場合、その点数を「写真1」とのように表示した）などを記した。
- 記事目録、記事紹介とも、漢字の旧字体や変体仮名は、原則として常用の漢字や仮名に改めた。また、適宜句読点を補った。
- 記事紹介では、記事の原文で強調のため文の途中で改行したり、行頭の言葉や文中の言葉の一部を大きな活字で表記したりしている場合があるが、それらは全て通常の文の改行と文字の大きさに改めた。
- 記事のルビは原則として削除した。
- 編者による注記は〔 〕内に記した。〔ママ〕と記したのは「原資料のまま」の意である。
- 判読できなかった文字は□で表した。
- 「はじめに」で述べたとおり、現在では蔑称とされるような用語も、資料としてそのまま記載した。

## 註

- \* 1 これは二人の勤務する職場が公的な資料保存機関であることに由来すると同時に、それぞれが有している問題関心でもある。近年の仕事として小川・山田編『アイヌ民族 近代の記録』（草風館、1998年）などがある。十勝では幕別町蝦夷文化考古館文書資料調査委員会編『吉田菊太郎資料集Ⅱ』（幕別町教育委員会、1998年）にも参画させていただいた。
- \* 2 山田「十勝における北海道旧土人保護法による土地下付」『北海道開拓記念館研究紀要』第25号、1997年3月、同「北海道旧土人保護法」による下付地の没収-第3条の適用実態について』『同前』第27号、1999年3月、同「北海道アイヌ協会」と「全道アイヌ青年大会」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第6号、2000年3月、小川「音更（開進）尋常小学校関係資料」『同前』第5号、1999年3月、同『近代アイヌ教育制度史研究』北海道大学図書刊行会、1997年などで、これらの一部についてはあるが解明を試みている。

## 記事目録：1920～1939年

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1920(大正9)年】</b>					
9月2日	2		旧土人／土地及職業別	B	
9月30日	2		旧土人総計は／朱書方通牒	A	
10月5日	2		門崎属の出張〔「音更土人学校」視察〕	A	
10月12日	2		管内旧土人／義務教育／終了者九十六名	A	
10月12日	3		年と共に亡び行く／愛奴種族の現在	A	
10月19日	2		幕別村部内の旧土人状態	A	
10月19日	2		十勝管内旧土人／生活状態所有地	A	
<b>【1921(大正10)年】</b>					
1月14日	3		純古式で／熊送り／明日午後から	A	
2月26日	2		帯広町部内／旧土人／現在百九十四人	A	
9月7日	3		アイヌ踊や／熊祭興行／を取締る	B	
9月14日	2		土人学業	B	
9月16日	2		土人教育研究	A	
9月18日	2		旧土人／保護救済／道庁方針	C	
9月20日	2		旧土人産業奨励(上)／亀山道庁属談	C	
9月21日	2		旧土人産業奨励(下)／亀山道庁属談	C	
11月9日	2		最近の北海道(十七)／道庁地方課調査〔五に「旧土人教育」〕	B	
11月18日	2		土人教育研究	A	
11月25日	2		旧土人教育／研究会	B	
11月29日	2		伏古伝道館／開館式	A	
12月1日	3		愛奴伝道館／開館式	A	
12月9日	2		伏古校増築	A	
12月13日	3		日新小学校／落成式	A	
12月18日	3		日新校落成／▽記念式挙行	A	
12月25日	2		土人教育費／配付額	A	
<b>【1922(大正11)年】</b>					
1月2日	4		〔「明治二十七年帯広町宅地第一回貸付当時貸付を受けたる人々の氏名」〕	B	
1月10日	2		土人研究会〔十勝旧土人教育研究会〕	A	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1922(大正11)年】(続き)</b>					
1月11日	3		福寿草と／アイヌの伝説／優しい女神の精	C	
1月19日	2		土人研究会〔十勝旧土人教育研究会〕	B	
2月3日	3		土人学校長／吉田氏表旗／十一日伝達式	B	
3月9日	2		旧土人児童／教育研究会	A	
3月19日	2		土人校卒業式	A	
3月31日	3		[ステーションより]	B	
4月5日	2		[新刊紹介] [『大正国民』：河野常吉執筆記事を紹介]	A	
4月12日	2		旧土人授賞〔農業経営品評会〕	B	
4月15日	3		[ステーションより]	B	
4月19日			三井視学来帯〔目的の中に「伏古土人学校」の改築に関する調査あり〕	A	市図
4月27日	3		[ステーションより]	B	
5月3日	2		十勝土人教育研究	A	
5月7日	2		土人就学児	B	
5月21日	2		土人品評会	A	
5月21日	2	無 偏 生	統計宣伝行脚／六、駅名と町村名	B	
5月31日	2		旧土人保導	A	
6月1日	2		旧土人教育	A	
6月4日	3		旭川から遙々熊さがし／支庁に委託	A	
6月10日	3		種馬牧場に御成りの／摂政宮殿下御予定／御途中河西橋よりアイヌが／独木舟で鮭捕りの様を御覧	B	
6月14日			鉄道の御慰物／愛奴独木舟の繰縦／十勝川に三艘並五段列／国旗を撃し正装口古風俗	C	市図
6月15日	3		殿下の御旅情を慰さめ奉る／土人の独木舟操縦	C	
6月21日			光栄ある管内七小学校の児童／摂政宮殿下の御覧を仰奉る／書方図画の執筆の栄を担ふ〔七校中に第二伏古尋常小学校の名あり〕	C	市図
6月24日	2		[毎日短評] [皇太子行啓のさいの「熊祭」供覧について]	C	
7月19日	1.4		奉迎鶴駕〔短歌〕	C	市図
7月19日	2	吉田 巖	旧土人の教育	C	市図
7月19日	4		勇敢にして／理義を解せる／十勝の青年アイヌ／一身を賭して敵陣に使ひし／雄弁を揮って同族を救ふ	C	市図
7月20日	1	吉田 巖	旧土人教育	C	市図
8月5日	2		旧土人保護事業（一）／道庁社会課調査	C	
8月6日	2		旧土人保護事業（二）／道庁社会課調査	C	
8月15日	2		奇特的な旧土人	A	
8月17日	3		巨熊出没／美利別方面に	A	
8月18日	3		[ステーションより]	B	
8月27日	2		音更方面水害	A	
10月8日	3		駅の案内標に出る／十勝沿線の名勝／コロボックル人種穴居の趾／尚残るアイヌが戦趾の数々	C	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1922(大正11)年】(続き)</b>					
10月20日	2		保導員協議会	B	
10月21日	2		土人保導員会	C	
10月21日	2		音更農業経営/品評授与式	C	
10月24日	3		アイヌは紳士ぢゃないと参加お断を喰はず/二日目の競馬会盛況	C	
10月25日	3		音更川柳吟行	C	
10月28日	1		十勝俳句大会句集	C	
10月29日	1		十勝俳句大会句集	B	
11月8日	1		秋のくれ〔詩〕	A	
11月17日	3		音更土人学校/改築落成式	B	
11月26日	2		土人校開校	A	
12月7日	3		アイヌ土人に関する/展覧会及講演会	C	
12月23日	1		柏葉吟社例会結果(続き)	B	
<b>【1923(大正12)年】</b>					
1月1日			十勝土人等の/チュツプ。イノミ	C	市図
2月17日	2		〔旭川通信〕旧土人混教	A	
3月2日	2		管内学事状況	B	
3月11日	2		土人救療規則	B	
3月13日	2		旧土人救療	B	
3月21日	2		土人教育研究	B	
3月22日	2		土人互助組合総会	B	
3月25日	3		開進授与式	B	
4月3日	2		伏古互助組合/新に組織さる	C	
4月3日	2		土人事務囑託〔ジョン・パチェラーが道庁の囑託に〕	A	
4月8日	2		勸農費給与	A	
4月12日	2		伏古互助会/役員会開催	A	
4月14日	2	唯根 伊與(談)	発明品博覧会と北海道(承前)	C	
4月16日	2		伏古互助会役員会	B	
4月17日	2		伏古貸貸新契約	A	
4月23日	2		伏古土地契約	A	
4月24日	2		新規土地契約/伏古互助会の	A	
4月26日	2		甜菜組合創立	A	
4月27日	2		勸農費給与	A	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1923(大正12)年】(続き)</b>					
4月27日	2		伏古土人部落／甜菜組合成立	A	
4月30日	2		旧土人禁酒会	A	
5月5日	3		禁酒講演会	A	
5月22日	3		民力涵養／活動写真会	B	
5月23日	1	橋本 白湖	春〔短歌〕	A	
5月23日	3		禁酒活映会	B	
5月25日	2		旧土人療養所／設置申請／目下状況調査中	C	
5月26日	2		旧土人保護の爲め／療養所設置計画／漸く具体化し来り／道庁社会課長実査	C	
5月26日	2		管内旧土人	B	
6月4日	2		治療院設置を／旧土人財産	B	
6月5日	3		〔小言集〕	B	
6月9日	3		華山氏講演会	A	
6月13日	2		〔毎日短評〕〔「旧土人小学校校長会議」に言及〕	B	
6月14日	2		土人保導委員／執務細則	C	
6月15日	2		茅原氏来帯／講演会開催	B	
6月17日	2		茅原氏講習会	B	
6月20日	2		茅原氏来帯	A	
6月21日	2		地方費事業として／旧土人病院設立／実現は本年九月頃か	B	
6月22日	2		療養所医員	B	
6月27日	2		社会課長来帯	A	
6月27日	2		土人病院の新設／新たに財源を発見／(札幌特置員)	B	
6月28日	2		山本課長帰庁	A	
6月28日	3	亀山道庁社会課属	色丹島へ（続）	C	
6月29日	3	亀山道庁社会課属	色丹島へ（承前）	C	
6月29日	3		所有反別も知らぬ／旧土人耕作地実地調査／並に正確なる等級査定／帯広町干係旧土人部落	B	
6月30日	3	亀山道庁社会課属	色丹島へ（承前）	C	
7月14日	2		都市計画に付／茶話会開催	A	
7月18日	2		土人保護打合	A	
7月19日	2		土人保護打合会／諮問と協議	C	
7月20日	2		土人保護打合会／諮問と協議（承前）	C	
7月20日	3		〔毎日短評〕〔アイヌの「保護救済」に言及〕	C	
7月21日	2		土人病院設立問題／土地の選定に行悩む／医師の選択も一仕事	C	
7月25日	2		土人保導員更迭	A	
7月26日	2		土人保護法／改正答申	C	



年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1923(大正12)年】(続き)</b>					
8月5日	2		土人智識向上／講演会計画	A	
8月12日	2		十勝外五郡／医師会臨時総会／土人救療実費診療等議決	B	
8月12日	3		旧土人改善／指導講演会	B	
8月18日	2		保導員会議	A	
9月19日	2		土人病院問題／年度内の物にならず？	B	
10月10日	2		土人療養所／本年見込無し	B	
11月18日	2		伏古互助例会	A	
12月1日	2		管内土人指導員〔土人保導委員欠員の囑託〕	A	
12月13日	2		伏古旧土人／組合成績／管内一の成績	B	
12月19日	3		旧土人表彰	B	
<b>【1924(大正13)年】</b>					
1月1日	15	吉田 巖	子年に因んだ／アイヌの／鼠の話	C	
1月1日	16	喜多 章明 (伏古土人組合幹事)	旧土人の指導に就て	C	
1月9日	2		町村長会議／附議事項〔「指示事項」中に「土人給与地整理に関する件」あり〕	C	
1月10日	2		土人互助総会	B	
1月16日	3	吉田 巖	十勝アイヌの伝説／其の一／三星と六星	C	
1月17日	3	吉田 巖	十勝アイヌの伝説／其の二／阿寒嶽の硫黄	C	
1月19日	3		旧土人は蛔虫のみ／和人は各種の寄生虫に侵さる／衛生上研究す可き問題	C	
1月29日	1		〔文苑〕〔俳句〕	A	
2月13日	3		白人の老愛奴／芦別山奥で巨熊を射止む	B	
2月17日	2	仙 峯 生	亡び行く愛奴の為に	C	
2月21日	1		幸震俳句会の芽生へ〔俳句〕	B	
2月23日	1		第二回幸震／六花会句集	A	
6月11日	2		山本社会課長／旧土人調査来る	B	
6月17日	2		音更視察／山本社会課長	A	
6月20日	2		山本社会課長／帯広視察	B	
6月20日	2		川合村に／旧土人互助会	B	
6月21日	2		土人給与地を／根本整理／山本課長の出張	C	
7月8日	2		旧土人互助／組合長会議	B	
7月12日	3		土人供与地／協議出席者	B	
7月16日	2		旧土人給与／余地賃貸／其筋に申請	C	
7月25日	2		旧土人／共有貯金／各部落で保管	C	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
【1924(大正13)年】(続き)					
7月29日	2		旧土人互助／組合規約	C	
7月30日	3		旧土人行倒れ	B	
8月3日	2		土人除草品評会	A	
8月5日	2		無智蒙昧なる／旧土人の善導計画／伏古互助組合の活動	C	
8月14日	3		筋骨逞しき／愛奴相撲／十五日伏古で	B	
8月19日	3		伏古愛奴相撲	A	
9月6日	2		管内土人校／昨年度予算／三千元計上	B	
9月11日	2		伏古の古戦場に／神威公園設立す／経費五千元にて／帯広町長に出願	B	
9月12日	3		旧土人共有財産の／益金を有意義に／使用せしめんと／支庁当局なやむ	C	
9月14日	1	黒人（芽室）	無題〔短歌〕	B	
9月18日	2		他管内土人視察	A	
9月20日	2		土人除草品評	A	
9月21日	2		〔人事動静〕〔喜多章明釧路へ出張〕	A	
9月21日	2		土人基本財産／協議会開催	A	
9月21日	3		河西土人／現在数	B	
9月23日	2		当町土人の進化状態／組合設立以来急進／部落改善は後五年／伏古互助組合 喜多理事談	C	
9月26日	2		全道支庁長市長会議〔指示事項〕中に〔土人給与地管理の件〕あり	C	
9月26日	2		当町土人の進化状態（完）／組合設立以来急進／部落改善は後五年／伏古互助組合 喜多理事談	C	
10月4日	2		釧路の土人部落		
10月22日	3		バ翁の愛嬢／八重子嬢が／伝道のため来帯	B	
10月24日	2		伏古組合協議会／社団法人に組織するは全道の魁ならん	C	
10月29日	3		土人語の駅名では／旅客は不安と／願ひ出た駅名改称は近く認可か	B	
11月2日	2		アイヌ製品を／巴里の博覧会へ	B	
11月28日	3		虐げられた／土人体育の増進／五十八名の合格者に／二十二名採用された／管内本年度徴兵成績	C	
11月29日	2		旧土人／青年処女打合会／昨日役場にて	A	
12月2日	2		旧土人処女会／会長決定／吉田校長推薦	A	
12月4日	3		一万七千円の／土人共財益金／近く各組合に交附／今後は組合で活用	B	
12月9日	2		河西管内旧土人／教育程度調査／十二月十五日迄完了	B	
12月14日	2		調査を終えた／管内旧土人教育程度／一般に向上普及さる	C	
12月14日	2		管内旧土人／基財益金／使途考慮中	A	
12月21日	2		目醒めた伏古互助会／納税組合組織／一月の総会に提出	C	
12月21日	2	飯田組合長 〔飯田 誠一〕	伏古組合事業報告	C	
12月23日	2	飯田組合長 〔飯田 誠一〕	伏古組合事業報告（二）	C	
12月23日	3		博愛の精心から／アイヌ熊祭を全廃／彼等の生活を向上さす為め	B	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1924(大正13)年】(続き)</b>					
12月24日	2	飯田組合長 〔飯田 誠一〕	伏古組合事業報告 (三)	C	
12月25日	2		伏古組合／貸地料預金交付方法／明春の総会に附議	B	
12月25日	2	飯田組合長 〔飯田 誠一〕	伏古組合事業報告 (四)	C	
12月25日	3		伏古互助組合／土門氏に／記念品贈呈	B	
12月26日	2	飯田組合長 〔飯田 誠一〕	伏古組合事業報告 (四) <sup>(ママ)</sup>	B	
<b>【1925(大正14)年】</b>					
3月31日	3		音更村で試みた／珍しい滞納統計／出生地別 宗教別に依るもの／成績は旧土人が第一位	C	
4月5日	3		伏古互助組合事業概況／何時迄も独立出来ぬ旧土人／今の処宗教の力も／いかさまもの	C	
4月8日	3		文芸雑誌／シ・アンルル／創刊	B	
4月9日	3		熊害警戒中／土人青年の殉職／過る日の大吹雪巡視中	B	
4月11日	3		十勝の社会事業概況／十勝自警会及び／北星園／土人組合	C	
4月14日	2		音更社会講演会	B	
4月18日	3		十勝土人の生活状態調査／案外健実に進みつゝある	C	
4月19日	3		郷土を代表する／土産品を出せ／各地の之が余りに貧弱／帯広はアイヌ細工	C	
4月30日	3		土人給与地／無断耕作／いかん	A	
5月7日	2		旧土人保護会／解散／積立金分配	B	
5月13日	2		伏古講演会	A	
5月21日	3		人類学の権威／コーリス博士／近く来帯？／瑞西民族と似てる／アイヌ研究のため	B	
5月29日	2		旧土人保護策／給与地を和人にとられるのを防いでやらねば	C	
5月30日	2		全国土産品／展覧会／札幌で開催	B	
5月31日	2		旧土人給与地	B	
6月18日	3		芽室土人給与地貸借解除問題／解除時期を失せるため耕作者は大狼狽／四十余町歩の甜菜畑の運命や如何に	C	
6月23日	3		アイヌ族の原始的生活をも／殿下には親しく御覧遊さる／海豹島行啓は御中止〔皇太子樺太行啓〕	B	
6月30日	2		河西土人／保導員会議	A	
7月3日	2		旧土人の教育程度／益々向上す／昨年は高等科に八名	B	
7月5日	2		互助組合概況 (二)／北海道庁社会課の報告	C	
7月7日	2		互助組合概況 (完)／北海道庁社会課の報告	C	
7月9日	2		伏古児童の／義捐金／山陰震災に	A	
7月11日	3		旧土人減少／帯広署の調査	A	
7月12日	3		旧土人／慰安活動／明日日新校で	B	
7月15日	2		本別旧土人互助組合役員会	A	
7月16日	3		虐げられた挙句に／非滅の淵へ／進み行くアイヌ種族／飽迄呪はしい和人達	C	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1925(大正14)年】(続き)</b>					
7月18日	2		土人互助金／川合活写／有志等斡旋	A	
7月24日	1		簡易保険金の／受領は面倒か／旧土人死亡後局長は／言を左右にして渡さぬ	C	
7月25日	3		函館戦史に／興を惹く…／松嶋見物後御帰京	B	
7月26日	2		旧土人救護のため／購販組合組織／物品を低廉に供給し／生産品を有利販売する	B	
7月30日	2		旧土人救済の／活動写真会／純益百四十五円七十銭	B	
8月16日	3	工藤琴湖生	虐げられて滅び行く／アイヌの研究／「本道開拓の第一人者」(一)	C	
8月18日	3		仏の信心が／足りない壺公連／益にもろくな目に合はぬ／アイヌの酔どれに手を焼く	C	
8月18日	3	工藤琴湖生	虐げられて滅び行く／アイヌの研究／「本道開拓の第一人者」(二)	C	
8月19日	3	工藤琴湖生	虐げられて滅び行く／アイヌの研究／「本道開拓の第一人者」(三)	C	
8月20日	2		本道旧土人／互助組合概況 (一)／組合二十四、人員千七百余名	C	
8月20日	3	工藤琴湖生	虐げられて滅び行く／アイヌの研究／「本道開拓の第一人者」(四)	C	
8月21日	2		本道旧土人／互助組合概況 (二)／組合二十四、人員千七百余名	C	
8月21日	3	工藤琴湖生	虐げられて滅び行く／アイヌの研究／「本道開拓の第一人者」(五)	C	
8月22日	2		本道旧土人／互助組合概況 (三)／組合二十四、人員千七百余名	C	
9月3日	3		勤労デーに／耕地地均し／伏古部民が	A	
9月13日	2		グロブ女史／音更村に来て／アイヌの血液を採る／五百人分を蒐集するため	B	
9月22日	3		何処までも／虐げらるゝ愛奴族／旭川近文の土人給与地を／和人が私下げ運動をする／前途頗る憂慮さる／将来は市へ編入の意嚮あり／何の道山奥に追はれる／佐藤保導員は語る	C	
9月23日	2		伏古互助組合／臨時総会／来二十三日	A	
10月2日	2		旧土人／貸与金／本秋回収	A	
10月3日	2		川合村互助組合／社団法人に組織変更	A	
10月4日	1		秋季音更神社例祭奉灯句集	A	
10月4日	2		川合村互助組合／財団法人組織理由／文化に遅れた無智な／旧土人を徹底的救済のため	C	
10月6日	1		九月栞葉吟社句集	A	
10月8日	2		[編輯余録] (ジョン・パチェラーによる「熊祭」批判について)	B	
10月10日	2		愛奴の製品／刺繍六点を献上／全国工兵架橋演習に際し／侍従武官御差遣を機として	B	
10月16日	2		グロブ嬢／伏古に来らず／予定の愛奴の血液五百人を／蒐集出来て帰国の途につく	B	
10月25日	2		旧土人に給与した／就業資金の用途／河西支庁で調査し／積極的に発展せしめる	C	
10月25日	3		変な町名はドシ〜改名／釧路市の春採は弥生町／茂尻矢は中嶋米町は曙町と	B	
10月28日	2		互助組合の／財産管理規程／基本財産保護のため	C	
11月4日	2		旧土人へも／勤遇の意義徹底／不時の場合に備へしめんと／河西支庁で大いに督励する	B	
11月8日	2		旧土人の／指導講習会／日新校で	A	
11月12日	2		喜多属芽室へ	A	
11月13日	2		芽室村互助組合／勤遇講習会／十一日芽室太公会堂で／支庁の喜多属が	C	
12月4日	3		アイヌ民族／大昔遺跡発見／日本民族と接触する以前／支那大陸と交渉があった	B	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1926(大正15・昭和元)年】</b>					
1月8日	3		太古の時代は／冬至が元日／日が短い処を境とした／日本の暦とアイヌの暦	C	
1月15日	2		土人児童は／年々向上する／成る可くは混合教育に努力	B	
3月13日	2		健実な発達へ進む／本別互助組合／管内組合中で最も優良	C	
3月17日	3		〔広告〕小樽新聞記者 工藤梅次郎著／新刊 アイヌ民話	B	
3月18日	3		逐年亡び行く／管内の旧土人／昨年に比して廿八人減／寒心すべき乳児死亡率	C	
3月28日	3		あすの晩／アイヌ放送／白老の溝岡郵便局長が	A	
4月1日	2		管内旧土人の／指導保護協議／互助組合長会合して／本月上旬開催	B	
4月2日	3		頭が良いので将来を嘱望さるゝ／農学士高倉新一郎君／帯校が生んだ最初の学士／喜びに包まれた高倉一家	C	
4月2日	3		無智の愛奴を／欺す某保導員／シャモに貸す土地に／潜む不正の噂高し	C	
4月6日	3		音更保導員に／伝はる噂は無根／土人の保護指導に熱心で／昨年は道庁から表彰さる	B	
4月20日	2		管内旧土人／耕作地積／昨年と大差なし	A	
5月7日	3		郷土情調の豊かな／材料を放送する／本道放送出願は現在十一／江差追分やアイヌの唄	B	
6月12日	3		旧土人部落の／衛生思想向上／全体を通じて成績良好／帯広町清潔検査する	B	
6月29日	2		音更伏古両部落の／結核予防デー／支庁喜多属出張講演	B	
7月11日	3		滅び行く愛奴に／積極的の保護／明年度予算に計上すべく／内務省で計画中	B	
7月13日	3		帯警管内の／旧土人／前年より減少した	B	
8月21日	2		管内旧土人／保導委員	A	
9月14日	3		大樹旧土人／巨熊を斃す	A	
9月17日	2		音更に大熊／作物を荒す	A	
10月24日	3		旭川のアイヌが／農民党に入党／滅び行く同族のために／新興勢力を植える	B	
10月31日	3		独伊英訳される／愛奴少女の詩集／既に仏訳されてパリでは／その天才を推奨された「神謡集」／今はなき近文の知里幸恵／北都高女で／友から差別され／奮起して勉勵の結果／金田一学士に養はる／自然を詠ひ先祖を讃ふ	C	
11月7日	3		元池田書記／土人米代／を横領消費／目下取調中	A	
11月7日	3		アイヌは豪州から／渡来したといふ学説／小金井博士の発表これを駁して／シベリヤ発源説／論戦に花咲く学術会議	C	
11月7日	3		小さい胸を痛めて／卒業後の方針を定める／帯広三校を来春出る児童等／少年職業指導に／当局今から向ふ鉢巻き	B	
11月25日	2		管内旧土人給与地／一千五十七町九反中／大部分は和人へ賃貸	B	
11月28日	3		往時はアイヌの為めの／警察だった／残ってる記録が仲々に面白い	C	
11月30日			吉田新校長／蕃童学校視察	A	市図
12月8日	2		宗教的方面から／旧土人を導く／支庁社会係でも現在／この方針で邦人化に努力	C	
12月12日	2		アイヌを教ふ道／信仰の力あるのみと／スッカリ伝道師になりすまして／東京の貧民窟に神の愛を説く／伏古の伏根甲造さん	C	
12月15日	2		南十勝処女地に／天地を求めて／音更旧土人近く移住／広尾干瀉川沿岸に	B	
12月25日	2		伏古互助組合／納税表彰者	A	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1927(昭和2)年】</b>					
1月9日	2		旧土人給与地/打合会	A	
1月13日	2		旧土人指導の/講演会	A	
1月15日	3		四十女にまくしたてられ/喜多支庁社会係凹む	B	
1月16日	2		伏古互助組合/通常総会/けふ午後一時/飯田組合長出席す	B	
1月26日	1		新年初句会	A	
1月26日	3	帯広町旧土人保導員	滅び行く種族の/現状を悲しむ(上)/宜しく善導に積極的なれ	C	
1月27日	3	帯広町旧土人保導員	滅び行く種族の/現状を悲しむ(下)/宜しく善導に積極的なれ	C	
2月22日	2		池田互助組合/評議員会	A	
2月24日	2		池田町互助組合/本年度の計画/昨日の評議員会で決定	B	
3月5日	2		別保互助総会	A	
3月6日	3		別保旧土人部落の/精農者を表彰/きのふ互助組合総会で/御馳走や福引に興ず	B	
3月9日	2		支庁員出張一東(喜多章明芽室へ)	A	
3月9日	3		旧土人の善導に/町当局が大童/今年は四百余円を計上して/生活向上に資す	C	
3月13日	3		掘置貯金を楽しむ/伏古の旧土人/酒に代へて右から左に/費ったのは昔のこと	C	
3月19日	3		アイヌ民族のため/老生を捧げる/ジョン、パチエラー博士/本道に保護学園創設	B	
4月20日	3		伏根さん/盗難の訴え	A	
5月4日	3		伏古の旧土人等/先祖の霊を弔ふ/部落民総出で共同墓地の手入れや植樹をなす	B	
5月8日	2		旧土人も列席して/互助組合協議/二十八日支庁会議室で/部落愛着心涵養のために/適当な娯楽慰安を講ずる	B	
5月8日	2		音更互助組合/定期総会/六日開催す/出席五十名	B	
5月8日	2		先づ「独立独歩せよ」と/けふ十勝旧土人有志大会/虐げられつゝ亡び行く民族に/奮然起った旭明社の旗揚げ	C	
5月10日	2		侮辱と迫害の前には/飽迄結束する/悲壯を極めた昨日の/十勝「旭明社」の発会式	B	
5月10日	2		[毎日片々] [旭明社発足]	A	
5月10日	2		[編輯余録] [旭明社発足]	B	
5月13日	2		十勝旧土人児童/就学分布状態/現在総数百五十二名	B	
5月13日	2		管内互助組合/会議延期	A	
5月19日			日新小学校長/台湾出張	A	市図
5月25日	3		旧土人の溺死体/幸震で発見	A	
5月31日	3		毎日俳壇	A	
6月15日	3		数字上から見た/伏古旧土人の生活状態/男は平均十八歳位から結婚する/一戸当り貯金額四百八十余円	C	
6月21日	2		伏古校に結核予防講演会	A	
6月25日	2		[編輯余録] [西川光二郎講演会関係]	A	
6月25日	2		西川氏帯中で講演会	A	
6月25日	2		[毎日片々] [西川光二郎講演会]	A	
6月25日	2		西川氏町内視察 [「伏古部落を視察」とあり]	A	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1927(昭和2)年】(続き)</b>					
6月28日	2		公会堂で／西川氏講演／聴衆貳百余	B	
11月30日			吉田〔日〕新校長／蕃童学校／視察	A	市図
12月6日	3		アイヌ婦人団／北糖視察／伏古部落の	A	
12月13日	3		民族開放のため／近文愛奴奮起／給与地奪還を叫んで／市役所に押掛く	B	
12月14日	2		〔毎日片々〕〔旭川のアイヌの運動について〕	A	
<b>【1928(昭和3)年】</b>					
2月1日	3		日新小学校で／旧土人表彰式／伏古互助組合が	B	
2月25日	3		〔秩父宮来訪記事〕	B	
2月28日	2		〔毎日片々〕〔秩父宮の来訪〕	A	
2月28日	3		伏古の奉迎準備	A	
2月28日	3		草深き北海に／取り残されて／旧土人の面影を／のこす日新校の沿革	B	
7月20日	3		滅び行くアイヌの為に／保護学園確立／道庁が主体となって／三万円の寄附募集	B	
7月25日	3		十勝人口動態	A	
12月14日	2		土人給与地／入地者に補助／指定地紋別原野／一戸百五十円宛を	A	
12月20日	2		旧土人児童／優秀者／推薦方依頼	A	
12月25日	3		天涯氏快著／北海道郷土史／帯広書店発売〔書評〕	B	
<b>【1929(昭和4)年】</b>					
1月8日	3	喜多章明 (河西支庁属)	公設医療機関の／拡充を望む	C	
1月9日	2		旧土人の／保護施設／指導方通牒	A	
2月13日	2		旧土人本位の／金融機関設置／信用組合組織決定	A	
2月13日	2		旧土人部落／特志／会館費寄附	A	
2月13日	2		旧土人精神／作興講演会／十一日伏古で	A	
2月13日	2		伏根氏の寄附	A	
2月23日	2		土工給与地／指導員／星野氏に囑託	A	
2月26日	3		古潭婦人会／奇特／会館費寄附	A	
3月3日	2		旧土人挙って／会館費を寄付／三十二名から五十五円／講演に感動して	C	
3月15日	2		土人教育／恩賜金／二校に分配	A	
3月20日	3		アイヌ児童に／中等教育を施す／バチラー博士の特志で／帯広から一名選抜	B	
3月23日	3		亡び行く…／旧土人の動態／前年より／百四十六名の激減	B	
3月31日	3		伏古互助組合の／評議員会開催／卅日記念館に於て	B	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1929(昭和4)年】(続き)</b>					
4月2日	2		伏古旧土人／互助組合総会／ <sup>(天)</sup> 記念館に於て開催す	B	
4月11日	3	菊地 達男	十勝の伝説〔一〕	C	
5月1日	2		互助組合の／改革案／河西支庁長に陳情	B	
5月8日	3		物置同然な／伏古記念会館／旧土人が勝手に使用してゐるとの噂	B	
5月15日	3	井 浦 生	和泉無人閑氏編／「蝦夷の燈」を読む	C	
5月17日	3		奥様の印象 十九／熊とアイヌと氷を／強く想像した帯広／二宮 医学博士婦人	C	
5月30日	2		町学校医の／担当児童調べ	A	
5月30日	2		支庁喜多属出張	A	
5月31日	2		優良部落の／視察に／十勝旧土人／三日出発す	A	
6月11日	3		純粹のアイヌは／一人もゐない／和人との結婚増加で	B	
6月15日	2		[写真]本日記念式に表彰さるゝ開拓功労者旧土人諸氏と岩崎村議	B	写真1
6月15日	3		晴れの祝典を迎へ／全村歡喜に輝く／会場を彩る協賛会の催しに／ 歡樂境を実現せん	B	
6月23日	3		互助組合設立／紋別原野旧土人給与地／指導計画の具体案	B	
7月2日	2		白人旧土人／矯風会を組織／八日白人神社で発会式	B	
7月17日	2		管内旧土人の／農事講習	A	
8月13日	2		明年帯広に／アイヌ会館建設／旭明社総会で決議す	B	
9月6日	2		十勝旭明社／緊急幹事会／八日姉妹校で	A	
9月6日	2	鈴木吉三郎	ヤシ繁る南国に／統治普ねき文化の跡／南洋群島を一覽して(一)	B	
10月16日	3		[毎日俳壇]	A	
11月9日	3		アイヌ会館／明春帯広に建つ／目ざめ行く青年の要求から／旭明 社の喜多氏語る	C	
12月18日	2		[新刊紹介] 中島峻蔵氏著／『北方文明史話』／趣味の北海道史	B	
12月18日	2		墓地を持たぬ／伏古の部落民／公認して欲しい…と／けふ帯広町 長に請願	B	
<b>【1930(昭和5)年】</b>					
2月5日	3		[毎日俳壇]	A	
2月16日	3		牛蘭社二月詠草〔短歌〕	B	
2月17日	3		[ゴシップ]〔軍人分会の「隠し芸」に「アイヌ踊とアイヌの演説」〕	B	
4月10日	3		土人給与地に絡る／売買無効訴訟／原告の勝訴歴然か	B	
4月13日	2		[毎日片々]〔喜多章明「本庁旧土人主任に榮転」〕	A	
4月13日	3		近き将来に於て／十勝に還へる／道庁社会課に榮転せる／名物男 喜多氏は語る	C	
4月16日	3		喜多氏送別会	A	
4月17日	3		泣いて別れを惜む／アイヌ民族／白人吉田菊太郎から／喜多氏に涙の手紙	C	写真1
4月26日	3		種子農具の／無償交附／支庁に願ふ／紋別の旧土人	A	



年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1930(昭和5)年】(続き)</b>					
5月6日	3		伏根家の計	A	
5月8日	3		前池田町助役/取調べらる	A	
5月10日	3		池田町前助役の/罪状愈々明白/けふ検事局に送らる	A	
5月16日	2		農産種子の/無償交附願ひ/広尾村旧土人の窮状/購入資金を交附に決定	B	
5月27日	3		伏根弘三氏/突如立候補す/コタンを地盤として/敢然馬を進む一	A	
5月28日	3		伏根さんの出馬で/山崎派ギリ/舞ひ/コタン方面の得票に大違算を生ず/形勢盛り返しに狂奔中	B	
5月29日	3		伏根候補の/政見発表演説/今晚軍人分会々館に	B	
5月30日	2		[毎日片々] [伏根弘三演説会で「幕別コタンの吉田青年」演説]	A	
5月30日	3		アイヌ族のため/伏根氏獅子吼/旭明社青年の応援で/昨夜軍人分会々館に	B	
6月2日	2		帯広町議選/開票結果 [伏根弘三得票三票]	A	
6月2日	3		[展望台] [帯広町議選の伏根弘三の得票について]	A	
6月4日	3		伏根候補の/記念会/伏古義勇館で四日開く	A	
6月5日	3		[ゴシップ] [伏根弘三の落選記念会について]	B	
6月24日	2		土人保護法改善	B	
6月27日	2	喜多 章明	札幌より	B	
7月31日	3		人の半面(5)/天下一品の/粹人佐々木酋長/支庁各課総まくり	A	
8月13日	2		和人の学校に通はせて/特殊校を廃止/来る二十六日道会議事堂で/全道アイヌ大会を開く	B	
8月24日	2		蝦夷人と和人	B	
9月7日	2		十勝旭明社主催/青年弁論大会/アイヌ民族の使命を叫ぶ/帯広に於て七日午前十時	B	
9月9日	2		横山次官視察	B	
9月12日	2		[毎日片々] [旭明社主催「雄弁会」について]	A	
9月20日	2		全道アイヌの給与地を/放牧場に変更/一千町歩に近い荒地	A	
10月4日	3		[毎日俳壇]	A	
10月7日	3		近く落成する/幕別燭風会館/アイヌ族啓蒙の尖端に立つ/吉田旭明社主幹の努力	C	
10月9日	3	前田 夕暮	十勝平(1) [詩]	B	
10月22日	2		土人教育研究	A	
10月30日	2		十勝旧土人の/農業経営状態/自作農二百廿一戸/小作農は三百八戸	B	
10月30日	2		旧土人の職業	A	
10月30日	3		旧土人の宗教	A	
11月8日	2		旧土人の戸数	B	
11月27日	2		アイヌ民族は/どんな宗教か/自然宗教が第一の模様/道庁の面白い調査	B	
11月29日	2		衛生保健上から/生活状態調査/旧土人の改善に努める	B	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1931(昭和6)年】</b>					
1月10日	3		ほろび行く／愛奴民族の群／帯広署管下だけで／昨年六月以降八十名の減	B	
2月5日	2		一万五千二百人／旧土人の総数／農業が一番に多い	B	
2月11日	3		紀元節拝賀式／町吏員出席	A	
2月14日	1		伏古互助組合	A	
2月18日	2		懇談会の名称の下に／全道愛奴大会／今夏札幌に開催する	B	
4月15日	2		土人教育研究	A	
4月21日	2		今秋から実行する／土人生活改善／道庁社会課の計画	B	
4月22日	2		来る八月に／日進校を廃止／和人士人を区別しない／児童は一般校に編入	B	
4月22日	3		伏古日新小学校／廃校問題悩む／廿七名のアイヌ児童は／何処へ行く？	C	
5月1日	2		〔編輯余録〕〔幕別不正事件関係〕	B	
5月1日	3		幕別村の大疑獄／司法官憲発動せん／奇怪極むる互助組合土地買収裏面／疑問を包む村長の策動／旧土人極度に憤慨／近く部落民大会開く	D	
5月3日	2		〔編輯余録〕〔幕別不正事件関係〕	B	
5月3日	2		〔毎日片々〕〔幕別不正事件関係〕	A	
5月6日	3		アイヌの白骨や／錆び刀を発掘／西士狩北五号線の高台で／その昔アイヌの古戦場	A	
5月7日	2		〔毎日片々〕〔幕別不正事件関係〕	A	
5月7日	2		〔編輯余録〕〔幕別不正事件関係〕	B	
5月7日	3		幕別村の不正事件／愈々明るみへ／道庁高等課より藤森警部等来帯し／真相調査に大活動を開始	B	
5月13日	3		渡辺幕別村長けふ調べらる／吉田補導員も召喚さる／幕別事件愈々進展す	B	
5月21日	2		〔編輯余録〕〔幕別不正事件関係〕	B	
5月22日	2		〔編輯余録〕〔幕別不正事件関係〕	B	
5月22日	2		〔毎日片々〕〔幕別不正事件関係〕	A	
5月22日	3		〔ゴシップ〕〔幕別不正事件関係〕	B	
5月23日	1		原野舎短歌詠草〔短歌〕	A	
5月23日	2		〔毎日片々〕〔幕別不正事件関係〕	A	
5月23日	3		恐喝両社長が握る／幕別疑獄の鍵／取調べと共に事件拡大せん／村長に業務上横領の旧悪暴露す	C	
5月24日	2		経費の節約／アイヌ校廃止／本年の八月末を以て／十三校中八校を整理	B	
5月26日	2		〔編輯余録〕〔幕別不正事件関係〕	B	
5月26日	3		問題の土地／買戻しに決定／中野一課長に宛て、／幕別村長から電報	B	
5月28日	2		〔編輯余録〕〔幕別不正事件関係〕	A	
5月30日	3		幕別疑獄恐喝事件／遂に起訴さる／無人閑と節侠の罪状明白／近く公判に附されん	B	
5月31日	2		アイヌ民族の／保護方針変更／子弟を農校に入学せしめ／自力的同族の向上を図る	B	
5月31日	2		〔編輯余録〕〔幕別不正事件関係〕	B	
6月9日	3		東部各駅の／アイヌ伝説蒐集／釧運当局の新しい試み	A	
6月11日	3		恐喝両社長の公判／けふ開廷さる／組上に解剖された幕別疑獄の副産物／四弁護人が附添ふ	D	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1931(昭和6)年】(続き)</b>					
6月12日	3		三井代議士振出し、と称する／一千円の約束手形／検事の追求に無人閑しどろもどろ／恐喝両社長第一回公判続報	D	
6月19日	2		土人の奨学金	B	
6月26日	2		[毎日片々] [田丸博士の「アイヌの眼質研究」について]	A	
6月26日	3		眼の田丸博士が／旧土人の眼質研究／トラホーム無料検診を／河西支庁宛に申込む	B	
6月26日	3		溺れる二人を／救った旧土人／幕別村白人鶴沼氏の表彰方を当局に申請	B	
7月11日	2		[編輯余録] [幕別不正事件関係]	B	
7月12日	3		アイヌ歌集／「若きウタリーに」／パチェラー八重子女史が／著した涙の同族哀調	B	
7月16日	1	大西與四雄	鮭漁吟行	C	
7月19日	2		全道的に亘って／土人施設改廃／九月より実施せん	B	
7月19日	2		廿二日か廿三日に幕別村会招集／又復両派の衝突か／幕別村長何処に行く	C	
7月19日	2		土人土地給与／面積二千百八十四町／前年より四町余増加	B	
7月19日	2		本別村に於ける／土人青年活躍／六百間の道路を開鑿／全団員の社会的奉仕	B	
7月21日	2		土人校を廃止す	A	
7月23日	2		八月三十一日をもって／日新校を廃止／三十余名の児童は／伏古分校に収容す	B	
7月25日	2		[編輯余録] [幕別不正事件関係]	B	
7月25日	2		議場は罵声怒号の交錯／渡辺派は憤然退席す／午後三時再開して岩田氏村長に当選／争闘に終始せる幕別村会	B	
7月25日	2		声明書 [幕別村長選挙問題]	C	
7月28日	2		渡辺氏の当選を期する／四百名の一団／神社境内に勢揃ひして／河西支庁に押し掛ける	C	
7月30日	2		[編輯余録] [幕別不正事件関係]	B	
7月30日	2		努力と向上／着々と楽園を建設する／幕別白人土人部落／ウタリーの先覚吉田君奮闘の成果／文化住宅は何を語る	C	
8月2日	2		[編輯余録] [幕別不正事件関係]	B	
8月2日	2		ウタリー協会	B	
8月2日	2		努力と向上／着々と楽園を建設する幕別白人部落／ウタリーの先覚吉田君奮闘の成果／文化住宅は何を語る	C	
8月6日	3		火と燃ゆる／同族向上の熱論／全道旧土人青年大会	C	
8月6日	3		道南文化を誇る三大展覧会／来る八日から十日間／室蘭市に於て開く	C	
8月20日	1	川上蝦夷児 (下音更)	アイヌの児の歌へる [短歌]	B	
8月20日	2		アイヌ部落視察	A	
8月26日	3		けふリンデイ夫妻／落石無電局へ／通信連絡の好意を謝して記念撮影／廿六日正午頃霞ヶ浦着か	B	
8月27日	1	川上蝦夷児	[毎日短歌] [短歌1首]	A	
8月28日	2		日新校の閉校式	A	
8月30日	2		日進 <sup>(マ)</sup> 閉校式挙行	B	
9月9日	2		[編輯余録] [幕別互助組合問題について]	C	
9月9日	2		総員互助組合脱退／覚醒せる白人の同族／自立自営理想の部落を建設せん／全道的に大衝動を惹起	C	
9月10日	2		[編輯余録] [幕別村会問題]	B	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1931(昭和6)年】(続き)</b>					
9月12日	1	川上 正男(音更)	母校閉鎖式に〔短歌〕	C	
9月20日	2		幕別互助組合／脱退届けを撤回さすべく／河西支庁が乗出す模様	B	
9月24日	3		白人の鶴沼君／表彰さる	B	
9月30日	3		吉田巖氏の閑居	A	
10月7日	3		人名救助表彰／白人の藤田氏	A	
10月9日	2		幕別村の土人互助組合／脱退を認める／支庁の撤回交渉に対して／白人部落は断固拒否	A	
10月9日	2	国 峰	〔編輯余録〕〔白人の互助組合脱退について〕	B	
10月21日	2		旧土人結婚難／女は和人と結婚し／男子には嫁がない	B	
10月25日	6		祝 本別開村開校卅年記念式並に役場新築移庁式〔「農事功労者」に関する説明に「土人保護の任に当り」とあり。翌日付に記事の続きあり〕	B	
11月12日	1		第二回毎日短歌紙上互選表	A	
11月21日	2		旧土人の陳情／和人一手の傾向がある／救済工事の分配を要求	B	
11月26日	2		土人の耕馬購買	A	
12月15日	3		音更の意気／五年禁酒同盟発会式／禁酒村の大標塔／十二日音更校にて盛大に挙行／村民七百名の示威運動	C	
<b>【1932(昭和7)年】</b>					
1月1日	3		〔吉田菊太郎年賀広告〕	A	
1月7日	2		退嬰的気分を一新する／土人保導政策／保導委員を全廃して／方面委員を新設す	B	
1月10日	1	眞木 英輔	チヨマトー沼〔短歌集〕	B	
1月12日	2		更生の途を目指して／旧土人蹶起す／文化村の建設に突進／救護地交附を請願	B	
2月25日	3		ピリカメノコを／映画女優に採用／伝明氏がテストする／希望者は本社に申込み	B	
2月25日	3		ウタリーの母／吉田氏夫人／白人部落に於て／空前の葬儀	B	
3月3日	3		許された／熊祭り	A	
3月4日	3		熊祭り／六日に催す	A	
3月10日	2		記念品を贈呈す〔もと保導委員2名に〕	A	
3月10日	2		幕別村矯風会館に於て／十勝公友会支部総会／総会の決議によって村議候補数名を擁立／新興勢力の台頭注目さる	C	
3月10日	3		ウタリーのため／吉田菊太郎氏の温情	B	
3月24日	3		人名救助表彰	A	
3月26日	1		エゾの止若支社例会句	A	
3月29日	2		期日まで僅かに一句！／幕別選挙界白熱化／三十騎の形勢頗る混沌	C	
3月29日	2		吉田菊太郎候補推薦か／公友会支部総会／白人の矯風会館に於て／廿八日午後六時に開催	B	
3月29日	2	国 峯	〔編輯余録〕〔吉田菊太郎の幕別村議立候補について〕	B	
3月29日	2		救護法方面委員	B	
3月30日	2		公友会の推挙によって／吉田氏立候補／攻防両戦の陣を固め／一路当選圏内に猛進	B	写真1

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1932(昭和7)年】(続き)</b>					
3月30日	3		救護法実施/方面委員/九名囑託さる	B	
3月31日	1		[吉田菊太郎推薦広告]	B	
4月2日	1		[吉田菊太郎推薦広告]	B	
4月3日	1		[吉田菊太郎推薦広告]	B	
4月3日	3		伏古互助組合/の表彰式	A	
4月7日	1		[吉田菊太郎推薦広告]	B	
4月9日	2		当選圏内と見らるゝ候補/幕別村民の総意如何/有権者の出足もよい正午まで七百票/開票は九日午前八時	C	
4月12日	2		[吉田菊太郎当選御礼広告]	B	
4月12日	3		同族のため/万丈の気を吐く/幕別村議に当選した/吉田菊太郎さんの喜び	B	写真1
4月14日	2		アイヌの人口/男子七百四十三名/女子六百九十五名	B	
4月14日	2		[編輯余録] [吉田菊太郎の村議当選について]	B	
4月16日	3		二七熊の胆を売り歩く	A	
5月7日	2		旧土人就学児童 [池田町管内]	B	
5月20日	3		西川光二郎氏/近日来帯	A	
6月17日	2		人間の力のみでは世界平和は望まれぬ/寿府会議の実相は腕と腕の争ひである/ホーリネス監督中田氏談	C	
7月6日	1		帯広町郷土誌(1)/町教育研究会編纂	C	
7月8日	1		帯広町郷土誌(2)/町教育研究会編纂	C	
7月9日	1		帯広町郷土誌(3)/町教育研究会編纂	C	
7月12日	1		帯広町郷土誌(5)/町教育研究会編纂	C	
7月15日	1		帯広町郷土誌(7)/町教育研究会編纂	C	
7月22日	3		伏古の凶作農民に救恤金	B	
7月27日	2		旧土人児童に/学資金給与	A	
7月28日	1		帯広町郷土誌(17)/町教育研究会編纂	C	
9月2日	3		救護の手を/払ひのける細民/町社会係を手古摺らす	B	
10月8日	2		本道のアイヌ/一万六千人	B	
10月12日	1	絹河 道子	コタンの秋 [短歌]	B	
11月12日	3		砂金の壺が埋蔵されてる噂/真しやかに伝へらるゝ/大樹円田鱒のお伽話	B	
11月29日	1		第四回十勝俳句大会特選集	A	
12月1日	2		旧土人給与馬/七頭を購買	A	
12月3日	2		管内の旧土人に/自力更生強調/凶作にひしがれ悲鳴続出	B	
12月14日	2		白人校落成式/参会者七百余名に上り/十三日盛大に挙行さる	B	写真1
12月17日	2		悪く向上する/旧土人の傾向/自立自営の精神なく/自作農は頗る少ない	B	
12月23日	3		ウタリーの父に/破格の御沙汰/輝く勲三等/光栄のバチエラー博士	B	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1933(昭和8)年】</b>					
1月20日	3		帯広今昔物語(2)／輝く市制を前に／昼尚暗き十勝川を／丸木舟で遡る／草分けの晩成社員中僅かに生残る／渡辺未亡人の思ひ出話	C	写真2
1月23日	3		帯広今昔物語(5)／珍説、鹿の氷漬け／角の山を築く／酋長の娘が奏でる青春ロマンス	C	写真1
1月25日	3		帯広今昔物語(7)／開拓戦線に現れた／勇敢な娘子軍／帯広最初の料理店 待合楼	C	
2月9日	3		帯広今昔物語(17)／進む文化に／亡び行く十勝アイヌ／伝説に織りなすメノコのロマンス	C	
2月10日	3		帯広今昔物語(18)／祭壇に熊を捧げて／踊り狂ふ民族／今は昔、華かなりしアイヌの熊祭り	C	
2月17日	3		帯広今昔物語(23)／拝み小屋に／春来れば芽を吹いて／晩成舎開拓当時の生活状態	C	
2月19日	3		帯広今昔物語(25)／駅馬を見て／驚いて隠れたアイヌ／今なほ各地に残る蜂塚	C	
2月24日	2		年々減少するアイヌの人口／昭和七年未現在に於て／帯広では二十三名減る	C	
3月21日	2		伏古互助組合	B	
3月25日	3		池田互助組合と／旧土人のいがみ合ひ／地先堤防の使用権に絡んで／醜態をさらけ出す	C	
4月9日	2		【編輯余録】〔互助組合の問題について〕	C	
4月9日	2		池田互助組合の大醜状／使途不明なる保管金／革正の声同族間に昂る	C	
4月26日	3		アイヌ少年の／犯罪が特に多い／人種的のひがみが原因	B	
5月6日	2		アイヌの勝利／大蔵省側の大譲歩／祖先の土地が還る	C	
5月14日	1	田上 義也	帯広都市計画／一考察	B	
5月20日	2		池田互助組合に／堤防は貸付けぬ／旧土人の主張遂に貫徹	C	
5月20日	2		【毎日片々】〔池田互助組合問題に言及〕	B	
6月13日	3		【ゴシップ】 歓迎九州人視察団	B	
6月20日			輝く名誉旗は白人分団へ／幕別村連合体育大会	B	
6月21日	1	堀内 暁雲(伏古)	哀しみ〔短歌〕	B	
7月11日	1		【毎日俳句】 日傘 (5)	B	
7月14日	1		【毎日俳句】 夏の川 (一)	B	
7月29日	4		日進校復活／実情に適するアイヌ教育／部落民も出現を望む	B	
7月29日	4		色丹島の／土人を調査／道庁社会課員一行出発／喜多アイヌ主任語る	C	
8月23日	2		アイヌ地名の／改称を断行／道庁が調査に着手	C	
9月14日	1		【毎日俳句】 新涼 (二)	B	
9月16日	1	七曜 童子	依田氏の功績と／アイヌ民族	C	
9月16日	2		旧土人払下地	A	
10月21日	2		【毎日片々】〔「ニセの音更村長」事件について〕	A	
10月21日	3		呆れた音更村長／アイヌを連れて無銭飲食行脚／瓜二つのニセ者と判る	C	
11月11日	2		十勝愛奴研究	B	
11月19日	1	絹河 道子	雑唱〔短歌〕	B	
11月25日	3		旧土人から／お祝の餅米／伏古保護者会へ	B	
12月7日	1	七曜 童子	十勝川開放に就て／附、酒造法の改正問題	C	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1933(昭和8)年】(続き)</b>					
12月8日	3		伏根酋長から／歳末救済金	B	
12月9日	3		滅びゆく／アイヌ犬を保存／血統登録規定を設け	B	
12月13日	2		札幌で開く／愛奴研究会／全国の各大学が聯合して／白色か有色の医学研究	B	
<b>【1934(昭和9)年】</b>					
1月1日	2		[年賀広告：幕別村村会議員]	B	
1月10日	1	絹川 道子	迫る山脈〔短歌〕	B	
1月20日	2		アイヌが叫ぶ／保護法撤廃／自主経営を行はん	B	
1月20日	3		[九州人会で「沖縄土人踊り」]	B	
2月17日	1		峠研究句会(二)	B	
2月24日	3		珍名づくめの／地名一掃／史蹟天然記念物調査会で愈々改正に着手する	B	
2月26日	2		[毎日片々] [喜多章明の発言に言及]	A	
2月26日	3		アイヌ族は／決して滅びない／寧ろ年々三百人宛増加、と／道庁の喜多氏が発表	C	
2月27日	2		[毎日片々] [喜多章明の発表について]	B	
3月15日	2		伏古旧土人に／市から百円交付／市役所に出頭大喜び	B	
3月18日	1		貴族院で可決／アイヌ法案／保護地処分確定さる	B	
3月18日	1		[速記室より] [旭川旧土人保護地処分法可決について]	A	
4月1日	1		伏古互助組合総会／伏古会館で開く	B	
4月1日	2		伏古互助組合	A	
4月3日	2		増加を見る／アイヌ民族／昭和八年度において／戸数三戸人口廿七人	B	
4月3日	7		生れる者より死亡の方が多い／帯広旧土人の動態	B	
4月8日	3		屈斜路古丹の／旧土人も義捐／函館大火に対し	B	
4月18日	2		旧土人を表彰	A	
4月21日	5	内海つとむ	熊の話／幼き頃の友『エベリカムイ』	C	
4月25日	5	星屋 郷雪	熊の話／殺された愛馬『東風』	C	
5月2日	3		土人土地給付／解決近し／道庁当局の準備進む	B	
5月7日	2		本別に旧土人修養館建設	B	
5月14日			保存される／カンカン古戦場／大津の天然記念物	B	
5月22日	8		[ラジオ番組紹介] 講演／アイヌ研究／北大助教授岡田正夫	B	
5月29日	4	澤村 栄七	白き花〔短歌〕	B	
5月30日	7		[毎日片々]	A	
6月2日	3		灘の酒よりも／ドブロク／神の恵みと考へたアイヌ達	B	
6月3日	3		各種の文化施設／模範部落を建設／近文給与地管理に土人側の希望	C	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
【1934(昭和9)年】(続き)					
6月3日	7		メノコ芸者逆立ち／お歴々筋は揃って青葉に塩…／帯広春競馬初日点描	C	
6月10日	3		[池田便り] [町役場にて「土人買収土地の件を協議」]	B	
6月30日	3		アイヌは／滅び行く／民族に非ず／戸口調査で立証	B	
7月19日	2		管内旧土人戸数二七四戸	A	
8月7日	4		[毎日歌壇]	B	
8月19日	2		帯広でも白樺細工	A	
8月27日	3		郷土芸術品の創作講習／九月一日から公会堂で開く／種目は風俗人形其他	C	釧路版
8月28日	7		塘路湖畔の／ペカンベ祭／人出一万人を算ふ	B	
9月5日	7		本社主催／帯広方面委員座談会(3) [吉田巖出席、発言あり]	C	
9月6日	7		本社主催／帯広方面委員座談会(4) [吉田巖出席、発言あり]	C	
9月6日	8		[ラジオ番組紹介] 樺太奥地土人の風俗／北海道帝大囀託／農学博士河野広道六日後六時半	B	
9月7日	3		釧路アイヌ／遺跡視察／祈祷や歓喜の踊	B	釧路北見根室版
9月8日	4	梅本 染郎	同族【ウタリ】	C	
9月10日	1		陸別村／アイヌの古城趾／史跡に指定か	B	
9月11日	4	葛西鬼子雄	十勝囃子【詩】	B	
9月12日	1		土人保護法をめぐる／バ博士舌禍／道庁当局カン〜に怒る	B	
9月16日	3		陸別の史蹟／具体的調査を俟って／指定運動を開始せん	B	釧勝両国提携機関釧路版
9月20日	1	角田 東耕	日高より	B	
9月27日	3	角田 東耕	浦河より	B	釧勝両国提携機関釧路版
9月29日	1	角田 東耕	苫小牧にて	B	
10月3日	2		旧土人から／天晴れ二名合格／十勝の受検壮丁十三名	B	
10月17日	7		太公望御用心鮭・鱒の捕獲区域／十四ヶ所を指定／ウッカリ竿を垂れると眠まれる／十勝川今が遡上の盛り	B	
10月21日	7		見事愛馬の復讐／上音更の三勇士、アマッポで／巨熊二頭を生捕り	B	
10月26日	7		古代アイヌの遺骨、武器発掘／北大教授連、下頃部へ	B	
10月28日	2		音更日進 <sup>(177)</sup> の旧土人学校活用／文化機関に充当	A	
10月28日	7		[ゴシップ] [十勝川における密漁について]	B	
10月30日	4	野原 水嶺	熊のうた【短歌】	B	
11月10日	2		伏古日新校の／校舎敷地を特売／互助組合の共有財産へ	B	
11月11日	1		新庁令に／土人が反対／希望無視の専断規則	C	
11月22日	1		陸別より	B	
11月27日	5		縁は異なるもの／映画の監督さんが／アイヌ美人と結婚	B	
11月28日	4	萩原 実	十勝の郷土史について (三)	C	
12月9日	2		伏古互助組合／小作契約／十日に行ふ	A	
12月23日	3		民族協和を／壇上に叫ぶアイヌ／川村青年本社を訪問	C	写真1



年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1935(昭和10)年】</b>					
1月1日	8	文占山生	場所時代の／アイヌの正月	C	
1月10日	2		旧土人保護法／改正案提出	A	
1月11日	3		十勝国名の発祥と／日勝沿道の地名	B	
1月12日	3		自滅から救ふ／アイヌ保護法／漁業や手工業へ…／導くやう改正	B	
1月13日	3		土人保護に／温い手	B	
1月16日	3		広尾村名の発祥と／日勝沿道の地名 (三)	B	
1月18日	3		広尾村名の発祥と／日勝沿道の地名 (四)	B	
1月20日	3		広尾村名の発祥と／日勝沿道の地名 (五)	B	
2月6日	4	渡辺 金樹	飛躍と地方文壇	C	
2月19日	4	角田 東耕	十勝文化史の一頁から (三)／十勝アイヌの／風雅な流行唄	C	
2月20日	4	角田 東耕	十勝文化史の一頁から (四)／物語に織込まれた／ユカラと長詩	C	
2月23日	4	角田 東耕	十勝文化史の一頁から (五)／苦難踏査の松浦翁の歌	C	
3月15日	7		十勝川の岸辺に／福寿草綻ぶ	B	
3月17日	2		伏古互助組合／定期総会	B	
3月23日	4	渡辺 金樹	熊 (一) [小説]	C	
3月24日	4	渡辺 金樹	熊 (二) [小説]	C	
3月26日	4	渡辺 金樹	熊 (三) [小説]	C	
3月27日	4	渡辺 金樹	熊 (四) [小説]	C	
4月6日	2		優良互助組合視察／伏古組員の三氏出発	B	
4月17日	4	吉田 正義	アイヌ文学「熊」と／啄木に就て二三	C	
4月19日	3		史蹟と地名を／保存せよ／茂岩支局	C	
4月21日	3		管内旧土人現況／戸数三〇一人口一四三／生活は漸次向上す	B	
5月10日	4		[毎日歌壇]	B	
5月12日	7		アイヌ犬保存／けふから札幌で展覧会	B	
5月13日	3		「ユーカーラ」研究で／一躍学界の寵児／池田町出身の久保寺氏／近くレコード、映画、述作を発表	C	
5月30日	3		ピ元帥の訃報に／悲嘆の盲目メノコ／元帥実弟との間に三人の子／頼らん人も今は亡し	C	
6月1日	2	太田 生	殉難碑に一同弔意／日勝アイヌの古戦場、今いづこ／日高視察団に加わって (二)	C	
6月14日	3		「亡びゆく愛奴」に／大きく×——／百三十年間を調査して／北大遠藤助手が発表	C	
6月25日	7		旧土人の所有地に／先有権争ひ起る／幕別村役場も業務上失態か？／借地人から確認訴訟	C	
6月28日	7		帯広今昔物語／晩成社時代／教育は総て寺小屋式／廿七古老に昔を訊ねる座談会 (一)	C	
6月29日	7		帯広今昔物語／涙の開拓日誌／箸の長さ実に一尺／古老に昔を訊ねる座談会 (二)	C	
6月30日	7		帯広今昔物語／十勝分監異聞／猛獣の如き兇徒／古老に昔を訊ねる座談会 (三)	C	
7月1日	3		帯広今昔物語／草分商舖列伝／官金は拳銃で護送／古老に昔を訊ねる座談会 (四)	C	
7月3日	7		帯広今昔物語／濡鼠の郵便脚夫／独木舟に米四十俵／古老に昔を訊ねる座談会 (五)	C	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1935(昭和10)年】(続き)</b>					
7月4日	7		帯広今昔物語／元老の菊五郎／洪水に莫蓮女悲鳴／古老に昔を訊ねる座談会 (六)	C	
7月5日	7		帯広今昔物語／石油罐文明／新聞界の幾変遷／古老に昔を訊ねる座談会 (七)	C	
7月7日	3		文字なき民族／アイヌを録音／近く全道的に撮影	C	
7月9日	2		京大國史研究の／一行近く来道／アイヌ民族研究が中心	C	
7月9日	7		[毎日片々] [京都大学によるアイヌ調査に言及]	A	
7月11日	4	江口 渙	七月文芸総評／迫進力のない『ほっちゃれ魚族』／(下)	C	
7月13日	4		蒼穹十勝支社／七月集 [短歌]	B	
7月14日	3		逆襲不平の連発に／道庁タジ／旧土人保護施設改善協議会席上／インテリ旧土人教團く	C	
7月14日	3		アイヌ工芸展／今秋札幌で	A	
7月23日	3		十勝管内の／旧土人現況調べ／戸数二九七、人口一一一三	B	
7月25日	3		十勝の町村史と景勝／沃野に抱擁され／躍進する幕別／挙村一致の実績顕著	C	写真3
8月7日	2		日高アイヌ／伏古視察	B	
8月9日	7		コスクになった／近文のアイヌ／アツシ姿を所望すれば「金」／視察団聊か顔まけ	B	
8月13日	3		アイヌの歌を／レコードに／金田一博士愈よ来道	B	
8月14日	2		狭間社会局部長の日程	A	
8月21日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (一)	C	
8月22日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (2)	C	
8月23日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (3)	C	
8月25日	3		アイヌ歌録音の旅／金田一博士愈よ本道へ	B	
8月25日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (4)	C	
8月27日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (5)	C	
8月28日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (6)	C	
8月30日	7		旧土人救療所を／急設されたい／けふ池田、本別の旧土人代表から／大森内務次官に陳情	C	
8月31日	4	近藤 伸	[小説] キリ子の話 (二)	C	
8月31日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (9)	C	
9月8日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (11)	C	
9月10日	4	新里 白峯	秋近し [詩]	B	
9月10日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (12)	C	
9月13日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (15)	C	
9月14日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (16)	C	
9月15日	4	野原 水嶺	十勝風土記／筆の道草 (17)	C	
9月19日	7		本道アイヌ手工芸品展／札幌市で開く	B	
9月24日	3		十勝からは／只一人／アイヌ工芸展出品者	A	
9月30日			電灯を消され／近文アイヌ狼狽／市役所に談じ込む	B	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1935(昭和10)年】(続き)</b>					
10月2日	4	前田 金治	“心の碑”読後感/吉田巖翁の近著(一)	C	
10月3日		前田 金治	“心の碑”読後感/吉田巖翁の近著(二)	C	
10月13日	3		保護から増殖へ/アイヌ犬浮ぶ	B	
10月25日	3		床しアイヌの情調を電波に/「坊やねんね」と旭川から放送/日本放送協会苦心のプロ/子守唄集に編入	B	
10月27日	3		アイヌの風俗と/遺跡を指定保護	B	
11月12日	3		アイヌ犬も記念物に/保存会で申請	B	
11月13日	3		[軽軌道][アイヌ犬保存について]	B	
11月19日	2		アイヌ犬保存規程	B	
11月22日	7		アイヌ犬珍重時代/二百円儲けてホク〜する/市内の橋本さん	B	
11月23日	3		アイヌ犬保存協会/各市、支庁に設立?	B	
12月6日	3		アイヌの名称廃止/代りに適当な/呼方はないか/先住民族の上に/内務省の優しい思ひやり	C	
12月8日	7		新皇子殿下いよいよお健やかに一御出度御命名御儀	C	写真1「北海道の奥地からアイヌ族夫婦の奉祝二重橋前」
12月15日	2		伏古互助組合/小作契約厳重	C	
12月20日	2		旧土人改正保護法/来議会提出	B	
<b>【1936(昭和11)年】</b>					
1月1日	13		[俳句]	B	
2月15日	3		アイヌ語の/地名を整理改称/道庁が積極的に乗出	B	
2月16日	3		「アイヌ踊」見物/絶対お断り/札鉄へ白老部落から	B	
2月22日	3		電化あまねき/蝦夷ヶ島/あまは僅かに廿五ヶ村のみ	B	
3月12日	3		アイヌ保護法/改正案提出/通常議会と決定	A	
3月13日	7		明日の糧もない/飢餓線上のウタリ-/万策尽きて共有財産支消方を/十勝支庁長に嘆願	C	
3月14日	3		本道ご自慢の/珍駅名/大演習前に全部改正	B	
3月27日	2		伏古互助組合/第一回役員会	B	
3月30日	2		早くも候補濫立/戦機熟す幕別村議選/定員廿四を目指す三十有余騎/選挙費用は百円以内	C	
3月30日	3		白人矯風会/表彰さる/シャモを凌ぐ/納税観念	B	
4月3日	2		戸数が増加して/人口は現象する/十勝管内旧土人の動態	B	
4月5日	3		強くなる方面事業/委員の資格も/従来より厳格化/市長、支庁長を支部長とし/一日から全道聯盟新設	C	
4月7日	2		幕別村議選挙/八日施行・開票九日	A	
4月7日	7		ウタリ-を救へ/代表から悲壯の陳情/窮状は判るが/悪弊助長が心配/現在共有財産は約一万円/支庁の細田課長語る	C	
4月10日	2		幕別村議選挙/九日開票結果	B	
4月19日	3	半田 芳男	ヤマベの話(六)/「白馬は馬に非ず」といふの類!/アイヌにも笑はれかねぬ謬説	C	
4月26日	3		今からでも遅くない/帯広市の字名/番地を改称/明年一月中旬を期して.../近く道庁で打合せ	B	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
【1936(昭和11)年】(続き)					
5月5日	7		一応内情を／調べる／ウタリーの窮境に対し／道庁喜多氏談	A	
5月6日	7		旧土人保護法／愈よ改訂／給与地売買を認める／今冬の通常議案に提案	C	
5月7日	3		名あって実なき／互助組合の現状／ウタリー向上に一抹の暗影／支庁当局も憂慮	C	
5月12日	3		天然記念物に／アイヌ犬指定	B	
5月12日	7		幕別の白人部落は／見世物ではありません／内地視察団の非常識振りに／ウタリー代表吉田さん憤慨	C	
5月14日	2		伏古旧土人／互助組合共地貸付決定	A	
5月15日	4	中間 正人	旧土人を憶ふ (上)	C	学芸面
5月16日	4	中間 正人	旧土人を憶ふ (下)	C	学芸面
5月22日	8		[広告：平書堂書店]	B	
6月2日	3		地方に適した／副読本制定の要望起る／「東北読本」の刺戟	C	
6月3日	2		旧土人給与土地／約二千町歩／保護法制定以来廿八年間	B	
6月9日	2		吾等の長官を迎ふ／第1日目／晴れやかに初の十勝入り／新田工場、ウタリー部落視察／帯広神社々頭に顔く	C	写真3
6月9日	2		新長官に／此の情／白人部落民／一同感謝	B	
6月10日	3		古地図の場合／情けなや北海道／樺太や勘察加と一固まりの憂鬱／パリの古本屋から現れた珍品／三百廿年前と推定	C	
6月13日	3		四十年前の日食／不安と恐怖に／狂ひ嘆く／「お天道様がご病気ぢや」と／アイヌ部落の思出話	B	
6月13日	3		函館港祭にアイヌ絵画展	B	
6月14日	2		天覧十勝物産品／選定打合せ	B	
6月17日	3		天覧に供する／十勝物産／十勝支庁で選定打合せ	B	
6月18日	4	吉田 巖	日食とアイヌ (上)	C	学芸面
6月21日			旧土人の生活程度／決して低からず／目立って悪いは教育／市内現住の旧土人四十六戸	C	
6月21日	7		原始の姿をこゝに／愛奴古老の祈り／「悪魔に喰はれゆく日の神様」に／きのふ伏古の異風景	C	
6月25日	3		「郷土読本」の題目／広汎に亘り決定／教育計画第二年度へ／高橋視学以下編纂委員前進	C	
6月28日	3		今年の「大日本」は／「北海道樺太号」／世界に頒布する欧文年刊雑誌／全道樺の權威が揃って執筆	C	
6月28日	3		第二回アイヌ／工芸展を開催	A	
7月2日	2		アイヌ工芸品／展覧会 (札幌市／丸井で)／十勝の出品を勧奨	B	
7月8日	3		拓け行く郷土十勝／先人の偉業を負ふて闘ふ／模範村幕別の巻	C	写真4
7月12日	4	野原 豊吉(伏古)	仏法僧に／絡はる悲しいアイヌの伝説／化け鳥・フチトットー	C	学芸面
7月14日	2		旧土人／健康衛生診断／主として伏古土人部落	B	
7月16日	7		童心に刻まれる／十勝の熊／郷土色たっぷり／木彫りの天才児／幕別生れの天才アイヌ高橋誠君／セッセと芸術に精進	C	写真1
7月17日	7		伏古旧土人の／健康状態／概して芳しからず	B	
8月2日	3		方面事業の／都市偏重／明年度から清算	C	
8月20日	7		開拓判官松浦氏の／令孫が視察に来帯！／昨日東京観光団の一行に混って／寸暇を割き市長と懐旧談	C	
8月21日	3		辺土孤住に生れた／アイヌの手工芸／来る二十六日から札幌今井で／作品展覧会を開催	C	
8月28日	3		侍従御差遣箇所近く発表	A	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
【1936(昭和11)年】(続き)					
9月1日	7		納税美談／ウタリーに／美しい義務観念／病軀を推し納期に市役所へ／伏古の板垣ゆきさん	C	
9月2日	3		植民地民族に／禁酒法を適用せよ／アイヌ、朝鮮、南洋の諸代表が／悲痛な叫びを挙ぐ	C	
9月4日	7		銀座通りに／アイヌ小屋が建つ／熊彫り少年のため提供	B	
9月5日	4		〔ラジオ番組案内〕俚謡(後八、〇〇、旭川より)／追分節と／アイヌ古謡／解説／佐々木長左衛門	B	学芸面
9月14日	3		勅使御差遣の御日程／帯広・十勝は五ヶ所	B	
9月22日	3		アイヌの生活や／風俗を映画に記録／ボストン博物館から依頼	C	
9月25日	3		輝く単独拝謁者／管内六功労者を内定〔内定者中に吉田巖の名あり〕	B	市図
9月29日	7		秋稔る十勝野に／おゝ今ぞ・光榮の御幸／一瞬・天地に爆発せんぞ感激に／廿万の民草緊張一色	D	
9月30日	1		奉迎〔昭和天皇十勝行幸〕	D	
10月1日	3	吉田菊太郎(談話)	太古の姿捨てゝ／浴すや聖代の光／御遣御差遣／の榮譽を拝して感激する／白人アイヌ部落	C	写真1
10月17日	7		札幌の丸井からアツシ大量注文／市役所で斡旋に大乘氣	B	
10月21日	7		郷土講演会を／十勝会館に開く／帯広市初めての催し	B	
10月23日	2		旧土人保護法／改正の基礎調査／内務省山崎社会部長来帯	B	
10月24日	7		吉田巖氏／から世円〔市社会事業費寄附〕	A	
10月28日	2		内務省山崎社会局長来帯／白人伏古視察	A	
10月31日	4	梅木 染郎	若きウタリー／「ラヂオ・ドラマ」風に(一)	C	学芸面
11月1日	4	梅木 染郎	若きウタリー／「ラヂオ・ドラマ」風に(二)	C	学芸面
11月3日	4	梅木 染郎	若きウタリー／「ラヂオ・ドラマ」風に(三)	C	学芸面
11月5日	3		一国家一民族の大理想へ／アイヌ保護法／改正の機運に到達す／根幹は土地所有権緩和	C	
11月5日	4	梅木 染郎	若きウタリー／「ラヂオ・ドラマ」風に(四)	C	学芸面
11月5日	4	高橋 真	郷土に就いて／伏古酋長伏根氏に捧ぐ	C	学芸面
11月6日	4	梅木 染郎	若きウタリー／「ラヂオ・ドラマ」風に(五)	C	学芸面
11月7日	4	梅木 染郎	若きウタリー／「ラヂオ・ドラマ」風に(六)	C	学芸面
11月7日	7		明晩十勝会館で／吉田巖氏の講演／先住民族の習性に就て	B	
11月8日	3		所在も判らぬ／チヨマトー古戦場／せめて標柱位は立てゝ欲しい／名も「神様の沼〔カムイト〕」と改称／ウタリーの願ひ	C	
11月9日	3		シユブサラ砦に／行幸記念の保護施設／西土狩に残るアイヌの古戦場趾／部落民の奉仕で完成	C	
11月9日	3		吉田巖氏の／講演会／真剣な研究発表	B	
11月10日	4	吉田 巖	北海道先住民族に就て(一)	C	学芸面
11月10日	4	梅木 染郎	若きウタリー／「ラヂオ・ドラマ」風に(七)	C	学芸面
11月11日	3		現状不認識の専横／同族保護法改正危し／吉田氏二万の訴へを綴って陳情／更に第二段策に前進	C	
11月11日	4	梅本 染郎	若きウタリー／「ラヂオ・ドラマ」風に(完)	C	学芸面
11月11日	4	吉田 巖	北海道先住民族に就て(二)	C	市図 学芸面
11月12日	4	吉田 巖	北海道先住民族に就て(三)	C	学芸面
11月13日	3		北海道博物館の／設立機運熟す／長官の決裁を経て実現	C	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1936(昭和11)年】(続き)</b>					
11月13日	4	吉田 巖	北海道先住民族に就て (四)	C	学芸面
11月14日	4	吉田 巖	北海道先住民族に就て (五)	C	学芸面
11月15日	4	吉田 巖	北海道先住民族に就て (完)	C	学芸面
11月17日	2		負債の重圧下から／立上る旧土人／本別、池田の居住者を打って 一丸／整理組合設立運動起る	B	
11月28日	7		ピリカ粉石鹼／愛用者優待映画／今明両晩美満寿館で	B	
11月29日	4	高橋 真	十勝アイヌの古事の断片 (上)	C	学芸面
12月1日	4	高橋 真	十勝アイヌの古事の断片 (下)	C	学芸面
12月5日	3		旧土人を欺いて／所有地を掠奪／非合法行為に当局も手を焼く／ 保護法改正で絶滅希望	C	
12月9日	7		チヨマトーの／史蹟保存／けふ沼畔で標杭除幕式	B	
12月10日	7		チヨマトーに史蹟標	B	写真1
12月12日	4	萩原 正勝	ミレイの死	C	学芸面
12月16日	4	中田 吉雄	アイヌ文学に就て／萩原君の「ミレイ」を中心に	C	学芸面
12月19日	3		旧土人保護法改正の暁／果してアイヌに／春は巡り来るか／この 矛盾／忽ち消え行く所有地の悲しみ／「夥しき窮乏」襲来	C	
12月22日	2		【論説】 過ったアイヌ救済策	C	
12月24日	2		十勝教育会で／十勝教育史を編集／愛奴の教育法から／寺小屋式 教育法も取入れる	B	
12月24日	7		元旦放送リレーに／アイヌ語で祝辞／梅村さんも得意の素謡を一 席／帯広から順々に南下	B	
12月27日	3		皇太后宮御下賜品／拜受の光栄／輝く社会事業功勞／名利を求め ず、老軀を献げ尽す／吉田翁に重なる感激	B	写真1
12月29日	2		保護法の改正／アイヌ代表が／上京して陳情	A	
<b>【1937(昭和12)年】</b>					
1月1日	12		丑の春を寿ほぐ／賑かな放送陣／年賀リレーに全四十局中のトッ プを切るOG	C	写真1
1月1日	19	吉田 巖 (談)	運用を一步誤ればウタリーは滅ぶ／旧土人保護法の改正を中心に	C	写真2
1月10日	2		岡部社会課長／十五日帯広へ	A	
1月10日	2		白人部落に／畜牛奨励／乳牛無償交付方を申請	A	
1月10日	4	古野 常	古郷の歌 [詩]	B	
1月20日	4	片田 一	「コシャマイン記」読後感	C	学芸面
2月6日	7		旧土人が／内地視察	A	
2月18日	3		恵まれぬ旧土人／政変の波に押流されて／来議会まで延期？	C	
2月26日	7		郷土みやげ品の／技術向上を図る／来月啓北校で講習会	B	
3月7日	7		伏古の旧土人に／改正保護法説明／万全を期する市当局	B	
3月9日	2		幕別村公職者の／弁償報酬条例改正／吉田村議から提案	C	
3月9日	7		旧土人代表が／お伊勢詣り	B	
3月12日	2		旧土人保護／改正法通過	B	
3月13日	3		旧土人小学校／漸次廃止／先づ荷負校決定	B	
3月13日	7		宿望実を結んで／ウタリーの歓び／吉田代表ら祝賀座談会に臨み／ 明治神宮にお礼詣り／旧土人保護法／改正案成立の日	C	写真1

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
【1937(昭和12)年】(続き)					
3月20日	7		貴重な資料蒐集/彩管に托して/原始民族研究に精進/池田高女生徒/出村君子さん	C	
3月21日	2		依然減少の/一途を辿る旧土人/十勝に現在千二百十四人	B	
3月21日	3		ウタリー代表の視察状況/東京にて吉田菊太郎	C	
3月27日	2		伏古互助組合/定期総会	A	
3月27日	7		同族自滅論の如き/認識不足も甚だし/改正された旧土人保護法を讀んで/先覚、吉田菊太郎氏談	C	写真1
3月28日	3		宮城を遙拝し/君恩に感激/吉田菊太郎氏/帰郷して語る	C	
3月30日	2		チヨマトー付近に記念植樹	A	
3月31日	2		管内旧土人の/公課負担額/五円以上が百戸	B	
4月4日	2		芽室太互助組合定期総会	B	
4月18日	3		花のお江戸もその昔/アイヌが棲んだ所/地名に残るアイヌ語	C	
5月1日	4	古磯太刀雄	[詩] セカチの声	B	学芸面
5月6日	2		旧土人給与地の/所有権登記激増/改正法施行を前に注目すべき事象/市内三分の二まで手続完了	C	
5月8日	3		新法を生かすため/旧土人に講習/先づ近文部落から……	B	
5月10日	2		旧土人の/共同作業所/芽室村に設置	B	
5月13日	3		十勝文化開拓史の二頁/十勝一円の覇者/酋長“シギシレ”の篤行/時の札幌県令感激の謝状/遺児山川老の宝物中に発見	C	写真1
5月15日	5		天然の大庭園/本別山溪〔名所案内記事、「伝説」に言及〕	C	
5月16日	3		芽室の登山案内倶楽部/愈よ今年も店開き/山女釣、登山、ハイク/何んでも御ざれの案内陣	C	
5月18日	3		アイヌ犬保護/近く仮指定か	A	
5月22日	4		天然記念物に/アイヌ犬の指定運動	B	
5月22日	7		給与地を繞り/窓の畔に迷ふ旧土人/改正保護法が生んだ同族悲喜相/和人頻りに爪を磨く	C	
5月24日	3		アイヌ工芸品展に出品/高橋真君が	A	
5月25日	7		黄金道路を/史蹟記念物に指定/近藤重蔵の苦心酬ひらる	B	
5月28日	3		旧土人標準家屋設計図作成	A	
5月30日			アイヌのお産/無料奉仕/保護法改正で/助産所を設置	B	
5月30日	3		登別温泉にアイヌの家/内地遊覧客に/コタンの生活を	B	
6月2日	2		改正保護法/座談会/けふ白人部落で	B	
6月10日	2		十勝旧土人の/戸口動態/十六部落、九百九十二名	B	
6月10日	3		旧土人に/理想的な家屋/八割を補助	B	
6月13日	4		アイヌの/お父さんと慕はれた/永久保春湖氏の碑建つ/部落民が徳をしたって	B	毎日コドモ新聞
6月17日	3		“シャマニ”か“サマニ”か/駅名決定に論議が起る	B	
6月18日	7		病む老メノコに/純情・若者の情け/幕別村に咲いた佳話	B	
6月23日	4		十勝のアイヌコタンに/道庁の保護で/立派な家が立ちます	C	図版1 毎日コドモ新聞
6月27日	3		旧土人の/衛生研究/学術振興会	B	
6月27日	4		トナカイ四頭が/小樽へやって来た〔「オタスの杜」から〕	C	写真1 毎日コドモ新聞
6月29日	2		石黒長官十勝視察(写真2点、うち1点「白人土人部落に於ける一行」)	C	写真2
6月29日	2		白人土人部落の/健康状態を質す/石黒長官の視察了る	C	

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1937(昭和12)年】(続き)</b>					
6月29日	7		[ゴシップ] [石黒道庁長官の白人コタン視察について]	B	
7月2日	2		旧土人住宅改善/各地の新築決定戸数	B	
7月3日	7		十勝アイヌの/医学的調査/北大有馬博士一行来勝	B	
7月6日	7		八十年振りで/松浦武四郎翁の/貴い史蹟を発見/清水町史を飾る一頁	C	写真1
7月7日	4		北海道の珍しい動物を/天然記念物にするため/文部省から生物学の/鍋木博士が調査に来ました	C	
7月7日	7		アイヌ児童/健康調査/検診治療日割	B	
7月11日	2		十勝アイヌの/医学調査/権威打連れて帯広へ	B	
7月15日	7		亡びゆく民族を診療/学術研究会の豪華調査陣来帯/けふは毛根の六十名	C	写真1
7月24日	4		北見地方で大昔人が使った/クジラの骨で作った/鍬や、かめや/鹿の角を掘出す	C	写真1
8月5日	4	岡崎 茂治	サロマ湖畔の/先住民族穴居跡（下）	C	学芸面
8月8日	7		血書の従軍志願/"皇恩に浴し便々銃後に耐え難し"/伏古のアイヌ青年から	C	
8月12日	3		永井医博一行/旧土人医学調査	A	
8月14日	4		仔熊連れの母熊を/アイヌ格闘して殺す	B	写真1
8月17日	2		旧土人指導者/養成講習	B	
9月7日	4		旭川のウタリが/熊の木彫をマスコットに/支那駐屯軍司令官の/香月将軍へ送る	C	写真1
9月8日	7		旧土人の給与地に/シャモの魔手!/沃野イカン別（幕別）危ふし/崇る改正法	C	
9月13日	3		白人部落民から慰問金	B	
9月16日	4	高橋 隆雄	私の仲秋日記より（1）[短歌]	B	学芸面
9月19日	7		ウタリーの赤誠/愛馬が国のお役に立った喜び/池田町役場に十円寄託	B	
9月27日	4	疋島 国鷹	[第二回帯広研究会作品集/短歌] コタン雀	B	
10月2日	2	古磯太刀雄	チヨマトー古戦場ニテ [詩]	B	
10月2日	2		旧土人住宅/改善補助/池田町に指令	B	
10月16日	7		アイヌ伝来の/家宝・母校に贈る/白人部落の長谷川敬造君/垂涎の珍品揃ひ	B	
11月5日	3		[新刊紹介] 北海道倶楽部（十一月号）[越崎宗一「美術界のアイヌ絵」掲載]	B	
11月7日	7		銃後の熱援に/只々感謝/幕別出身のウタリー/山川君から陣中便り	C	
11月12日	7		刻々失はれゆく/旧土人の給与地/一パイの焼酎で無智のウタリーを/欺す土地師が横行	C	
11月17日	3	某人	[天狗面] 十勝ウタリー興隆のために	C	
11月18日	7		帯広の字名地番/十二月から改称/消える“オベリベリ”や“石狩通り"/今後は判り易くなる	C	
11月21日	5		[ラジオ番組紹介] 子供の時間（童話劇）/トカプチユブカムイ異変/（千葉小太郎作）/帯広市柏小学校話方研究会	B	
11月25日	2		旧土人保護事務主任会議	B	
12月1日	7		旧土人住宅を/木造壁塗/先づ七戸選定	B	
12月7日	7		銃後に示す/同族愛/幕別村の朗話	B	
12月14日	2		芽室太互助組合/共同作業場落成	B	
12月30日	3		ウタリー青年/高橋君実習場へ/見事入所試験にパス	C	
12月31日	3		白人事件/愈々明るみへ	B	



年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1938(昭和13)年】</b>					
1月19日	7		ウタリーよ／国と給与地を守れ／白人の吉田村議叫ぶ	B	
1月24日	2		角田東耕氏の／“薬用植物”第一輯	B	
2月1日	7		ウタリーを滅ぼす／改正旧土人保護法／喰ひ物にされる同族にも罪あり／嘆く白人の吉田村議	C	
2月3日	2		[編集余滴] [伏根弘三の死去について]	A	
2月3日	7		ウタリーの父／伏根弘三翁逝く／伏古酋長の晩年寂し	B	写真1
2月8日	7		ウタリーの妻に／燃ゆる愛国心あり／池田町当局の救済辞退	C	
2月10日	7		帯広開拓の父／愈よ建設される／依田勉三翁の銅像／中島武市氏が独力で	C	
2月14日	3		名馬の死に／懇ろな葬儀執行／白人、吉田氏の愛馬朝日号	B	
2月19日	2		牝馬改良組合／白人に誕生／組合長は吉田菊太郎氏	B	
3月21日	3		戦友の告別式に／熱涙に咽ぶ／ウタリー山川一等兵から／早乙女氏への陣中便	C	
3月28日	3		同族教化のため／敬神観念を強調／上士幌報恩部落会／先覚者浅山君の努力	C	写真1
4月6日	7		病軀、苦心の編纂／アイヌ語辞典／近く世に出でん／心血を凝く吉田巖氏／会話も取り入れ／聚落別に分類／出版業者からの交渉を斥けて／私費を投じて上梓	C	
4月7日	4		東北海道俳句大会特選結果	A	
4月9日	4		ヒゲの全国大会／朝鮮ヒゲ／アイヌヒゲ／も飛入り	B	写真1 コドモ新聞
4月9日	4		東北海道俳句大会特選結果	A	
4月21日	2		ウタリー納税組合を結成／池田町別保に	B	
4月24日	7		ウタリー農家に／農具種子の心配／幕別村で万全を期す	B	
5月8日	2		旧土人住宅改善	A	
5月12日	3	幕別、カムイフシネ	[天狗面] アイヌと給与地	B	
6月9日	7		[ゴシップ] [「北海道のローカルを熊とアイヌに…」の書き出し]	B	
6月10日	7		商工奨励館内に／先住民族の遺物を陳列／郷土研究会員その他が奔走中	B	
6月12日	4		盛大に行はれたアイヌ鯨祭／半世紀前をそのままに／恐らこれが最後か	C	
6月15日	7		先住民族の遺物／続々と集まる／奨励館を彩る郷土色	B	
6月25日	3		[新刊紹介] 北海道倶楽部／六月号 [「アイヌ語辞典完成」の記事掲載]	B	
7月1日	3		北支戦線に活躍中の／ウタリー山川君から／部落へ寄せた奮戦記(幕別出身)	C	
7月13日	4	森本 三郎	ハイキングスケッチ／シユプサラの砦	C	
7月14日	4	葛西鬼子雄	砦シユプサラ	C	
7月17日	2		白人矯風会で／生活改善の協議／嬉しいウタリーの自覚	B	
7月23日	2		音更の旧土人／住宅を改築	A	
8月31日	2		旧土人生活の／内容調査／高倉司書官来帯	A	
9月8日	2		幕別のウタリー青年／時局下に団結／祖国愛に燃えて起つ	B	
9月14日	2		アイヌの建築智識は優秀／鷹部屋北大教授調査研究	B	
9月21日	7		亡びゆく <sup>ウタリー</sup> 民族に／時局の目ざめ／幕別に銃後佳話三篇	B	
9月28日	7		亡びゆく民族に／秋は徒に寒し／給与地は人手に冬の用意なく／幕別の先覚者の嘆き	C	
10月4日	7		先人の開拓苦心／次代の郷土背負ふ第二世連に感銘／“古き帯広を語る”座談会	C	写真1

年月日	面	執筆者	見出し	量	備考
<b>【1938(昭和13)年】(続き)</b>					
10月5日	7		古き帯広を語る (一) / 先づ郷土に感謝 / 帯広ッ児第二世の希ひ	C	
10月6日	7		古き帯広を語る (二) / 田辺孝三さんも / 昔は監獄の小使 / 草創五十年前を顧みて	C	
10月7日	7		古き帯広を語る (三) / 明治廿九年 / 大通を民間に開放 / 密淫芸妓が危く溺死	C	
10月8日	7		古き帯広を語る (四) / 厳し過ぎた典獄に囚人達が反抗 / 明治廿九年 / 糠平一帯、蛇で埋まる	C	
10月11日	3		お次の勉強は / アイヌ研究 / ハワード嬢北海道へ	B	
10月15日	7		古き帯広を語る (十) / 薪一敷六十銭 / 鮭の皮で爪甲をつくる	C	
10月29日	3		白樺細工の / アイヌを大陸へ / 新京観光協会斡旋方依頼	B	
11月3日	4	高橋 真	伝説の古戦場に / 理想的アイヌ部落 / 猿別川畔に模範村建設	C	
11月14日	3		大山某の手から / 土地を取戻せ / ウタリー間に猛運動 / 幕別	B	
11月15日	7		前非悔ゆる大山某 / ウタリーに土地返還 / 本紙記事に狼狽 / 遂に妥協	C	
11月17日	4		世に出たバ翁の / アイヌ語英和辞典 / 更に綴る「六十年の思ひ出」	C	
11月22日	7		白人コタンに / 共同浴場 / 吉田氏の努力で完成	B	
11月23日	4		詩歌研究会著作集 (十一月)	B	
11月23日	7		ウタリーよなぜ泣く / 旧土人保護法に / この抜け道あり / 永小作権の設定こそ先決問題 / 先覚者吉田氏は叫ぶ	C	
12月2日	7		ウタリー部落に / 軍国の妻 / 五児を抱へて奮闘	B	
12月24日	7		ウタリー青年の赤心 / 入選の賞金をソックリ献金 / 本社一部寄託 / 幕別の長谷川紋造君	B	
<b>【1939(昭和14)年】</b>					
1月1日	6		紙上表彰 / 郷土建設の覇者 / 開拓戦史を彩る人々 [「コタンの先覚者 / 吉田菊太郎氏」あり]	D	
3月10日	7		ウタリー青年 / ラヂオドラマ完成	B	
3月16日	2		旧土人住宅改良補助	A	
3月23日	3		「アイヌは滅びず」と / 同族の生活調査 / 長谷川君、近く発刊	B	
4月12日	2		全十勝男女青年紙上雄弁大会 / 凡ゆる苦難を克服せ [よ] / 幕別村ウタリー代表 高橋真	C	写真1
5月1日	3		同族の発展は / 生活改善から / 伏古 日新婦人会の懇談会	B	写真1
5月2日	7		北満勤労奉仕団へ / ウタリー青年も参加	B	
5月7日	5	小宮山節子(帯広)	俳句	A	
6月1日	7		アイヌ語「伏古」を / 西帯広と改称 / 伏古住民、近く運動開始	C	
6月7日	7		アイヌ語が訛った / 面白い駅名の起り / 帯広は川尻の壊れた川	C	
8月5日	2		盟邦独の留学生 / アイヌ部落視察	A	
8月13日	3		[ラヂオ] 詩劇 / アイヌ叙事詩 (ユーカラより) / 西浦の神 / 十二日 / 後八、三〇	C	

## 記事紹介 (1) : 1921~1925年

〈1921(大正10)年〉

1921(大正10)年9月7日付 (3)

**アイヌ踊や／熊祭興行／を取締る**

土人の慣例として従来行はれつゝありたる熊祭り其他アイヌ踊りの如きは、之れを土人部落に於て行ふは敢て妨げなきも、彼れ等土人の無智に乗じて、興行者連の他地方に興業的に出演なさしめ玩弄視さるるは、土人をして独立自尊の精神を阻止し、延って彼等の保護精神に反するに至るに依り、此際此種の件に付き充分の監視されべき旨、河西支庁にては土人の関係町村に通牒をなした。

1921(大正10)年11月29日付 (2)

**伏古伝道館／開館式**

当町大字伏古愛奴部落に予てより建築中なりしアイヌ人伝道館は、這般漸く竣工せるをもって、来る三十日午後一時より、札幌バチラ博士臨席の下に開館式を挙行することに決定せり。

1921(大正10)年12月1日付 (3)

**愛奴伝道館／開館式**

伏古愛奴古潭に建築なりたるアイヌ人伝道館開館式は、昨日午後一時より盛大に行はれ、札幌よりバチラ博士及び当町大井、上田両牧師参列し、莊嚴裡に式は挙げられ、各来賓の説教ありて、全四時式は閉ぢた。

1921(大正10)年12月13日付 (3)

**日新小学校／落成式**

当町日新尋常小学校にては、予て校舎改築中の処、此の程落成を告げたるを以て、来る十七日午前十時より、左記順序に依りて落成記念式挙行する由。

一、着席 二、修礼 三、挙式の辞 四、君が代 五、勅語奉読 六、工事報告 七、式辞、記念撮影、昼食、児童学芸会、監視官式辞、来賓祝辞、学校長誨告

1921(大正10)年12月18日付 (3)

**日新校落成／記念式挙行**

日新小学校改築落成記念式は、予定の如く昨日午前十時半より開催したるが、重なる来賓として土門助役、渡辺支庁長、工事請負者中田氏、其他町有志多数参列し、形の如くあり。記念撮影を終りて児童の学芸会に移り、支庁長其他の祝辞演説ありて式を閉ぢたり。

〈1922(大正11)年〉

1922(大正11)年1月19日付 (2)

**土人研究会**

十勝旧土人第三十一回教育研究会は、既報の如く去る十四日午前十時より、伏古日新尋常小学校において開催されたり。出席者は音更小学校長黒川富次、日新小学校長吉田巖の両氏其他にして、左記事項協議の午後二時散会せり。

- 一、来学年度前期教科書に関する件  
修業年限延長認可に伴ひ教科書に異動を来せるにより、供給上遺憾なきを期すること。
- 二、旧土人児童教育規程実施に関する修業年限延長認可指令書交付に関する件
- 三、旧校舎住宅処分の件  
旧校舎を徒らに腐朽せしむるに忍びず、此処分方を監督官庁に依頼すること。
- 四、学校維持費に関する件  
旧土人校補助費増額を其筋に稟請すること。

1922(大正11)年4月12日付 (2)

**旧土人授賞**

昨年八月、当町伏古土人部落民に於て開催されたる農業経営品評会にて、賞状を授与されたる左記旧土人に対し、今回道庁より賞品として、農具を給与されたり

桑原三十、山本利吉、古川辰五郎、淵根ミナ、武隈熊次郎、天木重次郎、谷観太郎、淵根シナ、上野留吉、本間助太郎、人舟又太郎、佐々木彦作、廣野八、木村庄太郎、中川徳

〈1923年〉

1923(大正12)年3月22日 (2)

#### 土人互助組合總會

土人互助組合設置に付きては、曩に管内保導員協議會に於て協議され其準則の制定を見たるが、今回帯広町部内の旧土人互助組合、右準則に拠り組織され、之れが<sup>(マ)</sup>組立總會は来る四月一日午後一時より伏古日進尋常小学校に於て開催の事に決定せるが、同組合は組合員各自の精神的結合を為し、協力一致組合の決議事項を実行し、相互の福利を増進するを以て目的とし、役員に正副組合長各一名、理事、幹事各二名を置き、組合設置当初の目的達成に努力すべしと。

1923(大正12)年4月3日 (2)

#### 伏古互助組合／新に組織さる

当町伏古土人部落にては、従来農業組合なるものを設け農業経営を為しつゝありたるが、其成績思はしからず、のみならず最近に於ては種々の弊害を〔醸〕し、土人<sup>(マ)</sup>醸間の争鬭をすら見るに至りたるより、之れを廃し新たに岡田町長の斡旋に依り伏古互助組合なるものを組織し、全部落民の福利を増進せんと、四月一日午後一時より日新小学校に於て之れが創立總會を開催せり。出席者は町長代理土門助役、喜多書記、伏根弘三外四十六名にして、土門氏議長席に着き、組合規約を満場に諮りたるに異議なく承認、引続き議長役員を左の如く指名し、午後四時散会せり。

▷理事古川辰五郎▷評議員木村庄太郎、小川重太郎

1923(大正12)年4月8日 (2)

#### 勸農費給与

十勝管内旧土人勸農費給与に関しては、曩に其筋に申請中の所、今回願出の通り給与のことに決定せるに依り、現品購入の上各自に配付さるべしと。而して給与者は七十五名六百四十四円十二銭にして、中帯広町廿名、芽室卅名、音更廿五名なりと。

1923(大正12)年4月16日 (2)

#### 伏古互助会役員會

伏古互助会役員會は、既報の如く十四日午後一時より町役場樓上に於て開催、出席者

岡田町長、土門助役、山本、喜多両書記、古川辰五郎、木村庄太郎、小川重太郎

の諸氏にて、土地賃貸料率の制定、及前農業組合の締結せる契約の認否等に付き審議確定せるが、尚役員選挙を行ひ、左記の通り当選せるが、同会は従来種々の紛擾を醸したる部落の争鬭を緩和し、堅実なる発達を遂ぐることに努力すべしと。

▶組合長岡田熊太郎▶副組合長土門玄吾▶理事古川辰五郎▶幹事山本謙吾、喜多章明▶木村庄太郎、小川重太郎

1923(大正12)年4月17日 (2)

#### 伏古賃貸新契約

伏古互助組合の土地賃貸新契約は、来る十九日より三日間、毎日午前九時より午後四時迄町役場樓上に於て施行すべきに付き、部落民は右三日間に亘り適宜、出頭者を三分し出頭すべしと。

1923(大正12)年5月25日付 (2)

#### 旧土人療養所／設置申請／目下状況調査中

道庁に於ては、旧土人保護の目的にて、浦河支庁を初めとし其他上川支庁外二三の旧土人多数在住地に之が病傷療養所を設置し、全種族の滅滅を防止し来りしが、当河西支庁管内は全道でも他管に比較し多数の旧土人在住し、殊に当帯広町付近は最も其数多きに拘らず右療養所の設置なきを遺憾とし、先般河西支庁より道庁当局に対し之が建設の義を申請したるが、此程其状況を委細報告せよとの回答あり、目下支庁では右に対する報告に就て調査を急ぎつゝあるが、当局の語るところによれば旧土人療養所の設置は旧土人五十戸以上現住の町村に限ることになってゐる、然るに我帯広町部内はより以上多数の現住者あり、療養所の設置は当然のことで、不日認可の暁は帯広と音更の中間に設置を見るならんと。猶帯広部内現在の旧土人二百廿七人中の症病状態を見るに、人口の約十八%九四と云ふ病菌患者あり。各病別に示せば左の如し。

▶腹膜一▶神経痛一▶胃腸病二▶感冒七▶マ  
ラリヤー〇▶湿疹〔数字空欄〕▶虎眼一三▶  
角膜炎一▶其他眼病三▶疥癬三▶不詳一▶計  
四二

1923(大正12)年5月26日付(2)

**旧土人保護の爲め／療養所設置計画／漸く具体  
化し来り／道庁社会課長実査**

予て支庁より申請中の旧土人保護の爲め療養所  
設置の件に関し昨報せるが、更に其現況調査方  
を音更村役場に命じ、既に其調査を了せるが、  
特に明日は山本社会課長も音更方面に出張し、  
親しく実地調査を行ふべく、事は已に具体化し  
つゝあり。若し愈々認可さるゝものとせば、本  
年は予算の許す範囲内に於て直ちに其設立に着  
手すべく、其設置場所も余程進捗してゐるらし  
く、仄聞するに音更、帯広間に決定を見るべし  
と。今音更村現在の病患数を示せば人口男七十  
四名、女七十名、計百四十四名中、

▶呼吸病 男十名女十二名

▶胃腸病 男四名女二名

にして、一ヶ年病患者通計は百十名、薬価五百  
五十円、特殊病として間歇病白癬皮膚病等なり。  
尚旧土人は一般に貯蓄心に乏しく、為に病気に  
罹りても医療の資無く、多くは祈祷のみ捉はれ、  
之が爲め疾患年々拡大し今や青年、児童、処女  
等にも波及し居る状態にて、彼等は切に一日も  
早く治療所の設置を希望しつゝありと。

1923(大正12)年6月4日付(2)

**治療院設置を／旧土人財産**

旧土人救済に関し、予て河西支庁より其筋へ旧  
土人治療院の設置方を申請中なりしが、今回更  
に道庁より支庁に旧土人の財産調査方を申来れ  
るが、右財産は左の如し。

▶中川郡四分利公債八千五百五十円▶勸業券四  
百四十円▶拓債七分五厘利付一万一千円▶同  
八分利付二千四百円▶漁場一千五百七十三円  
▶計二万三千五百六十三円▶河西河東両郡▶  
四分利公債五千三百五十円、勸業債券百四十  
円▶拓債七分五厘利付六千円▶同八分利付三  
千五百円▶帯広町に於ける宅地八千五百円▶  
計二万一千四百九十円、通計四万五千五十三円

1923(大正12)年6月21日付(2)

**地方費事業として／旧土人病院設立／実現は本  
年九月頃か**

当地方に旧土人病院設立の必要なることは、夙  
に当局に於ても之を認め、支庁と道庁当局との  
間に交渉中に係り、此程も朝枝属出札、右進捗  
方につき夫々打合を遂げ帰庁せる由なるが、右  
は庁令の一部改正を要する点もあり、土地の関  
係等もあり、本年九月頃ならでは実現を見る能  
はざるべきが、建設予定地としては、当町遊郭  
前の地方費土地の十六町歩許りの中の三段歩位  
を使用し、家屋は建坪六十余坪位、此の建築費  
四千五百円、外に医療機械器具約一千円の見込  
なりと。

1923(大正12)年6月22日付(2)

**療養所医員**

既報旧土人療養所設立は、既に其の決定を経た  
るが、右医師に関しては月百円の手当を給する  
は確実なるも、或は専任とするか又は開業医に  
兼ねしむるかは目下考慮中なるが、多分他管内  
よりの輸入を見るべしと。

1923(大正12)年6月27日付(2)

**土人病院の新設／新たに財源を発見／(札幌特  
派員)**

▶産業の振興、教育の改善、衛生思想の向上——  
と云ふ様に、旧土人の保護指導に就いては道  
庁でも最善の努力を尽して来た。

▶未開地の交付、小学教育の改善、土人病院の  
増設等は即ち夫れであるが、今また帯広に土  
人病院を建設して、付近一円に住んで居る土  
人の救済に充てるそうである。

▶河西管内と云つても、主として音更伏古茅室  
幕別であるが、二百戸約六七百人の土人が住  
居を構へて居る。

▶従つて道庁でも此の病院の必要に迫られて居  
ったのであったが、予算が許さなかつたので  
今迄放任して置いたのだそうナ。

▶処が今度愈々其財源が出来たと云ふのは、河  
西支庁長が管理して居る土人の共有財産が時  
価に見積つて約四万八千円もあるそうで、夫  
れから生れる処の収益が年々二千余円に上る

と云ふ話だ。

- ▶此の二千何円かの収益に目を付けたのが社会課の山本クンで、早速支庁長の渡部クンに交渉し善からうと云ふ訳で建設に決まったのである。
- ▶道庁の意嚮では八月より建築に取懸る模様で、予算は建築費四千元、内容設備費一千元、合計五千元位の見積りで、内一千元位は国庫の補助らしい。
- ▶場所は帯広石狩街道木賊ヶ原附近の地方費土地の一部で、建坪六十二坪一月までには開院したいとのことだ。

1923(大正12)年6月28日付(2)

#### 山本課長帰庁

道庁山本社会課長は、廿六日午後四時十七分列車にて来帯、土人病院敷地検分及び同病院建設に関する諸般の打合を為し、同七時廿八分発列車にて帰札せり。

1923(大正12)年7月21日付(2)

#### 土人病院設立問題／土地の選定に行悩む／医師の選択も一仕事

当地方に旧土人病院設立に関しては、道庁当局に於ても既に其必要を認め、曩に建設予定地としては当町遊郭前、即ち地方費土地十六町歩の内三段歩を無償に借受け、家屋建物六十坪、此建築費四千五百円内外、其他医療器械及器具等約一千円計五千五百円の予算にて、十月末乃至十一月月上旬迄実現を見るべく、已に道庁より之が建設方認可されたるは已報の如くなり。然るに今仄聞する処に依れば、其建設方手配中に於て、従来建設予定地と決定せる遊郭前地方費用地は昨夏の水害の中心地なれば、之を他に変更すべしとの議内部に起り、従って他に候補地を物色するに至りたるが、目下注目されある箇所を挙げれば、一は現在予定地、一は東二條十三丁目附近の町有地、一は河西支庁附近石狩通りに面せる某氏所有地、一は某方面町有地の四箇所にて、目下の処其之が選択に躊躇しつつある状態なるが、若し仮に某氏の所有地に建設せるにせよ、町有地に建設するにせよ、明年即ち建設を見たる翌年よりは、毎年金二千円宛国庫よ

り補助あるも、現在の処にては一銭の補助だに無く、之を建設するに付きても、一切の費用は旧土人の基本財産の利息より支出することに漸く議纏まりたる状態なれば、今右の内或箇所決定し建設するに付きても、無論無償にては貸付せざるべく、夫かと云って之を購入する資金とては無し、従って今日の状態より押せば、無償にて貸付する土地に非ざれば到底解決を見ること不可能なりとし、茲に一支障を来したる模様なるも、之も多分本月中には何等か解決を見るべく観測さる。猶同病舎に就き内容を示せば、病舎は総坪数前述の如く、平家建六十坪にて、全部屋根はトタン張りとし、内病室三間に五間十五坪、其中にベット六台を備へ、他は診察室、薬局、看護婦部屋、患者控室、重患者控室、医師住宅等なるが、此設計は現在開院中の平取、静内、白老、浦河の四病院設計を参考として設計したるものにして、此囑託医師の選択に関しては当局も頗る腐心の体にて、僅々百円内外の俸給にては到底生活上の安定を得る能ざれば、土人に就いて趣味を持ち、研究心のあり、義侠的精神を有する医師を以て之に充つる方針なる模様なるが、果して此適任者あるや否や疑問なり。結局他管内より移入して開業医を兼ねしむるより他無かるべきか、何れにも土地の選定が刻下の急務なるべし。

1923(大正12)年8月5日付(2)

#### 土人智識向上／講演會計画

帯広町役場にては、部内旧土人の品位を向上し、知識を啓発せしめ、遊惰の悪弊を一掃、改善の目的にて、本月中旬頃各部落に於て講演会を開催し、聴講せしむべく計画をたて、目下講師の選定中なり。

1923(大正12)年8月12日付(3)

#### 旧土人改善／指導講演会

来る十五日、伏古尋常小学校に於て、旧土人の智識啓発、能力向上、風教改善の爲め、旧土人指導講演会を開催し、並に禁酒の宣伝を行ふ筈なるが、講師は未定なるも河西支庁朝枝属、喜多町役場書記、帯広警察署員其他の数氏なりと。

1923(大正12)年9月19日付(2)

**土人病院問題／年度内の物にならず？**

帯広町に土人病院設立に関しては屢報せる如く、設計書は作製され、経費としては国庫よりの二千元補助及土人基本財産利子を以て設立すべく既に確定せるが、其後土地の選定に関し町当局及其他関係者とも懇談的に数回に渉り交渉を試みたるも、折合附かず、当局は全く頭痛鉢巻の体なるが、若し今後其儘にて推移する場合は、此伝染病発生期を控えながら年内に其設立困難なるべしと憂慮し居るもの尠からずと。

1923(大正12)年10月10日付(2)

**土人療養所／本年見込み無し**

帯広町に建設する土人療養所は、既に設計書も作製され、土地の選定確定次第直ちに入札に附し建設する迄に準備成りつゝありしが、屢報せる如く土地の選定に支障を来し、其後幾多の曲折を重ねたるも遂に纏らざる為め、本年中には到底建設見込無かるべしと。

1923(大正12)年12月19日付(3)

**旧土人表彰**

帯広町部内伏古土人部落に於ける旧土人は、伏古旧土人組合を組織して智識の向上、生活の安定、其他共存自営の質を挙げつゝあるが、全組合に於ては、明春一月六日、全地小学校に於て模範旧土人の表彰を行ふ可く、先般来其筋に於て調査中のところ、左の二名を表彰することに決したと。

▶古川辰五郎▶山本ウメ

〈1924(大正13)年〉

1924(大正12)年2月17日(2)

**亡び行く愛奴の為に**

▶旧土人の年々歳々滅滅し行くを憾み、昨年河西支庁に於ては、之が保護の当面施設問題として、旧土人病院設立に関し屢々論議もされ研究もされ、其結果旧土人共有財産より約六千円の支出する財源を見出し、茲に設立することに決定せり。

▶然るに、設立進捗上最急を要すべきは土地の選定にて、之には当局に於ても相当頭を悩まさ

れ、当時は四箇所の候補を上げ中最適と目されたるは遊郭附近なる町有地なりしが、若し該地を適当として設立するとせば、町に於ても多大な犠牲を払ひ、無条件にて貸与するの意嚮なりし。

▶当時支庁当局も大分該地に建設すべく傾きつゝありしが、夫れや此れやで躊躇〔躊躇〕し居る中、一部間に在りては該地は前年八月洪水を受け最も其被害の甚しき箇所なれば、若し再度同様見舞はれることあらば、多大の損傷は到底免かざるべしと。

▶即ち将来の安定を考慮せば、他に新地積を求めて設立すべしとの論者も出で、遂に設計書の作製迄見しも其儘立消の状態となり、其問題も本年に繰越し宿題となせり。

▶顧ふに和人の民福を図り、彼等特種人種の滅亡を閑視するは、之人道上赦すべからざる大罪にして、之を救済するは刻一刻を争ふべからざる最大急務なり。特種人種は愚論を弄する迄もなく、金銭を以て云々する〔こ〕と難く、換言すれば本道元始時代を物語る一の遺物なりとも称すべし。

▶殊に十勝川治水工事は、既に昨年起工式を了し、漸次我十勝をして斯かる不慮の惨害を蒙らしめざる様事業遂行中なれば、完成後自然斯かる惨害を防圧する事当然なれば、新年度に在りては水害を憂れての理由に拘泥せず、是非明年度(大正十三年度)に於て落成を見、而して亡び行く彼等特種人種を救済保護せねばならぬ。

(仙峯生)

1924(大正13)年6月20日(2)

**山本社会課長／帯広視察**

山本社会課長は、去る十四日来勝以来、帯広町、幕別、川合其他に於ける土人給与地及び其他に付き実地調査なす処ありて、昨十七日止若より一番にて帰札せるが、社会課長は調査の途次帯広町を除いた芽室、川合、幕別村に未だ旧土人互助会の設立なきを嘆じ、三村旧土人有力者及び町村長と協議の上、前記三村に旧土人互助会設立する事を約したるが、芽室村は一日も早く設立する事に奔走し、来る五日を以て之が発会式を挙行すべしと。

1924(大正13)年6月21日(2)

### 土人給与地を根本整理／山本課長の出張

土人の根本的の保護を意味する給与地の整理は、過般来道庁山本社会課長の手で名寄を皮切りに着々取運んでゐるが、同課長は目下更に帯広に出張、帯広を中心とする十勝一帯の土人給与地整理に着手中であるが、同方面給与地は

◀帯広が七十八町歩◀音更村が八十七町歩◀幕別が二百五十二町歩◀川合村百八十四町歩◀本別が百五町歩◀芽室百二町歩

以上約八百町歩であるが、これ等は非常な乱れかたで、大部分は和人のためにただのやうな料地<sup>〔ママ〕</sup>で長期の賃貸を為してゐる有様である。それ等に対して、それべゝ関係者を村役場等に呼出し、成るべく合意的に<sup>〔ママ〕</sup>隠当な解決方法をとつてゐるが、名寄同様順調に運んでゐる模様である。なほこの機会に町村単位の土人互助組合をこしらへて、給与地に対する適当な保護に当らしむることにしてゐると。

1924(大正13)年9月12日(3)

### 旧土人共有財産の／益金を有意義に／使用せしめんと／支庁当局なやむ

管内土人共有財産は、従来道庁に於て管理し居り、此共有財産より生ずる益金も亦道庁に於て管理積立し居りしが、今回之が益金を就業資金として、河西郡外三郡の各戸に対し一戸につき金五十円を配当し、夫々有益なる方面に使用せしむる事に決定し、河西支庁では目下該当町村に対し旧土人實際戸数及其他参考事項を調査中であるが、河西支庁としての方針は、今就業資金として金五十円を夫々配当すれば、従来の例を徴しても明かなる如く、直ちに費消し折角有意義に配当せる資金を無意義に、即ち最終の美をなさずして終る事なれば、何んとかして其資金を合して社会事業に或は各自適当なる資金に使用せしめんとしてゐるが、先づ其一例は、<sup>〔ママ〕</sup>マート沼附近一帯を神威公園となし、伏古旧土人百戸配当金五十円を以て種々之に樹木、築山、休憩所、花園等を配合して慰安場に充てるが如く、其配当金を有意義な方面に使用せしめんと腐心してゐるが、近く何等か具体的に各町村で決定の上、夫々河西支庁に報告ある事だらうと。

1924(大正13)年9月21日(2)

### 土人基本財産／協議会開催

来日<sup>〔ママ〕</sup>二十四日午後一時より、伏古日新学校内に於て、旧土人部落共有基本財産に関する協議会を開く由。

1924(大正13)年9月21日付(3)

### 河西土人／現在数

河西支庁最近の調査に係る、管内河東、河西、中川三郡の旧土人互助組合戸数は、総計三百二十二戸にして、其内訳は左の如し。

伏古七十戸◀古潭三十四戸◀芽室太五十六戸◀川合三十九戸◀幕別六十九戸◀本別五十三戸

1924(大正13)年9月23日(2)

### 当町土人の進化状態／組合設立以来急進／部落改善は後五年／伏古互助組合 喜多理事談

昨年四月当町土人部落に互助組合を設立して以来、自分は彼れ等の精神の向上と生活の改善の為に不断の努力を続けて来た。此頃では効漸く現れて、従来に比し生活程度が余程向上したのみならず、本年に入りては自発的に住宅を新築する者が四五戸も出来、其家に至っては農家の和人の家などは遠く及ばない。従来ならば貸地料や儲けた金を直ぐに酒食に費した者だが、此頃ではそんな者は殆んど見えなくなった。此調子で進んで行ったら今後四五年内には全部和人以上の文化村を創設する事が出来るし、又当町の模範部落になるかも知れない。何を言つても彼の部落には無産者は一人も居ない。七十戸揃つて皆五町歩宛の土地を所有してゐる地主様だ。そして他の野蕃人は水平社の如く<sup>〔ママ〕</sup>猴猛性や危険思想を抱懐せず、克く柔順に指導者の命に<sup>〔ママ〕</sup>応ずる所が彼れ等の長所であつて、指導宜しを得ば、物質的にも精神的にも感化向上し得られる可能性がある。然らば彼れ等民族が従来社会から遺棄せられてゐたかと言ふに、道庁長官始め支庁長あたりでも、行政上<sup>〔ママ〕</sup>自己の手腕を發揮するに、どうしても地方民と利害関係を有す産業や他の方面に全力を注がねばならぬ。夫れが為めには、斯る消極事業に手を出して居る暇がないと言ふ所から、遂に一顧も与へられずして今日に至つたのと、今一つは彼れ等が余り柔



順性であり、且つ経済生活に鈍い所から、和人の為に食ひ物にせられ、食った揚句は亡び行く民族などと勝手な名前を付けて、弊履の如く社会のどん底へ抛り投げられた。

1924(大正13)年9月26日 (2)

当町土人の進化状態〔完〕／組合設立以来急進／部落改善は後五年／伏古互助組合喜多理事談  
土人保護の名目の下に組織された土人組合も往々あったが、何れも彼れ等の血を啜るにいゝ丈け啜って退散したのに、甚しきに至ては道庁から囑託を受けた保導委員の中には、三年間に二万円の富を造った人もあるそう。此様な人達は土人を神様にでもして祭らねばならぬのに、上彼れを見捨て、衆彼れを虐むに至りては、果して彼れ等は如何にして活路を求むる由があらうか。自分は本年例の保導委員を囑託された。何でも話しに依ると年俸十円とか呉れるそうだが、月五六回は必ず部落を巡回するし、其外往復文書や通信費に約五円は入る。夫れでも孜々として人道上の上に立って、虐待されつゝ彼れ等民族の救済に努つゝあるのだ。こんな保導委員様が全道に十人も居れば、本道の土人は昔に進化されてゐるだらう、土人人種の経済上の価値に就いては別問題として、人道上よりすれば自然の成行に放任する事は許さない。如何に不生産的であるにせよ、夫れは社会の病氣として認容し、極力感化訓育を図らねばならぬ。幸に近時道庁が此事業に骨を入れて呉れる事になったのは、寔に喜ばしい。他町村はいざ知らず、当町の土人は速かに改善して、一日も早く現在の見世物的環境より蟬脱せしめねばならぬ。今回交付された共同財産の運用方法に付ては、未だ具体的な腹案がないが、取敢へず積立金として利殖を計つゝ、臨機応変の処置を取る心算である。若し夫れ此金に依りて他動的に家を建てゝやるとか着物を買ってやるなどは大の禁物である。斯くする時は益々依頼心を増長して、彌が上に骨董的人物ならしむるの外、何物をも獲る事が出来ぬ。精神的自覚なき者に対し他動的に学ぶる保護は、丁度子供に花を持たした様なもので、日ならずして他に売却して仕舞ふであらう。宜敷精神的保導をして、身を治むる者は

先づ心を治むの方法を取り、住宅衣服調度の如も成る丈け自発的に改善せしむる様にしたい。

1924(大正13)年10月22日付 (3)

バ翁の愛嬢八重子嬢が／伝道のため来帯

愛奴の慈父さんバチエラー博の養女バチエラー八重氏は、既に四十歳を迎ふる迄独身にて父君の業を助け、同族救護の基督伝道をして来たのであるが、本日午後三時半列車にて来帯、直ちに伏古日曜学校にて、午後五時より婦人会並に有志の歓迎会に出席、明二十二日午後五時より同所に於て伝道説教会をなし、更に十勝全体に亘って同族部落のために伝道をなすといふ。

1924(大正13)年10月24日 (2)

伏古組合評議会／社団法人に組織するは全道の魁ならん

本日午前十一時より、町役場楼上にて伏古土人組合の評議員会が開かれ、古川辰五郎外評議員五名出席。貯金奨励、造田計画と従来の組合を社団法人となさんとするの三件に就て協議する所があったが、之れに就て喜多保導員語った。

「歴史を語れば古いことではあるが、明治三十九年、時の支庁長上野直温氏は、土人部落の生活向上を図る為めに、安田巖城氏に命じて組合を組織させたが、中に一二の不心得者があって、無智な土人を煽動しては金品を捲き上げ、大正七年以来十年に掛けては組合の金をも消費した事件は、已に天下の周知する所である。然し此の時と共に滅び行かんとする種族は、益々世渡の面倒になる社会に処して、到底何等の指針なしに渡れるものではないので、また昨年四月より別に町長を組合長とする現在組合が出来たのである。爾来漸く成績を挙げ、組合は各戸に強制的に貸地料の二割の貯金を奨励し、而も金銭出納は全部町収入役の保監として必要ある毎に渡してゐるが、これとても男が取りに来たのでは婦路に酒を飲むでしまふ氣遣ひがあるので、女にのみ渡すことにし、猶成績の悪い者は通帳を預り置き、現品を引合はせて渡す様にしてゐる。こんな事を聞いたら其の不自由を歎つ向もあるかも知れないが、斯くして現品を持って行

った者までが、帰途それを質入れて酒を飲むでしまふといふ様な事は、珍らしくはないのであるから、止むを得ない。組合は等之の悪習を徹底的に改善したいと思って、全力を挙げて保導をしてるが、民族的偏見は何うしても和人と相容れないから、先づ彼等には第一に貯蓄をさせて、生活の向上と職業教育の充実を図りたいと思ってる。然し今迄の如き私的組合では結束も弱く、随って権利行使等も徹底的でないから、更に之を社団法人として、向後五ヶ年の間にはさう当の成績を挙げたいと思ってる。それと湿地の部分は水田に改造して、土地改良もやって行きたいと思って今回の協議会を催したのである」と。

1924(大正13)年11月29日付 (2)

旧土人／青年処女打合会／昨日役場にて

本二十八日午前十時より、当町役場楼上に於いて、伏古部落旧土人の組織せる処女会並青年会員会合し、会長推薦に関する件、並に過般勤検週間中加入せる簡易保険の集合方法、十四年一月二日に行ふべき拝賀式等に関し協議したが、役場よりは喜多書記出席した。

1924(大正13)年12月14日 (2)

管内旧土人／基財益金／使途考慮中

既報土人基本財産益金は、一戸当り五十円の割合で、音更、帯広、本別、芽室、幕別、川合の各互助会に交付したが、何しろ右は戸当りに配金したとしても個人的に使用出来ず、万事互助会に於て利殖の途を講ずる訳なれば、目下河西支庁では之が使途に関し照会中である。

〈1925(大正14)年〉

1925(大正14)年10月4日 (2)

川合村互助組合／社団法人組織理由／文化に遅れた無智な／旧土人を徹底的救済のため

川合村旧土人互助組合では、既報の如く四十五名より社団法人の組織認可方申請せるが、其理由は次の如くで、目下申請中の帯広町互助組合と之れで二組合の法人組織申請を見た訳である。

▷理由書

本組合員は本村大字大森信取東台千代田の二部落に居住せる旧土人を以て組織したる組合にして、従来旧土人保護法に依り各戸に五町歩宛の土地の給与せられたる次第なるも、元来性遅鈍にして未開地に住居し来りし習慣上、現下の社会に対する処世の道を覚らず、漸次文化に遅れ、衛生思想乏しく、為めに栄養不良の結果逐年死亡率を増加しつつあり。之に反し近時和人の移住激増に伴ひて生存競争益々激烈を呈し、給与地の如きは低廉なる貸地料にて殆んど和人の占有に帰し、彼等は益々貧弱敗惨に瀕しつつある状態にありき。此を以て、昨年六月北海道庁訓令に基き本組合を設立し、教育の向上、衛生思想の普及を図り、併せて給与地を整理して生活の改善を企図し、思想善導に努め来りしが、従前に徴するに其の効果大に見るべきものあるに至れり。然る所本組合の組織たるや、単に個人の集団たるに過ぎずして法律上上法人たる人格を有せざる故に、組合団体の名義を以て権利義務の主体たるを得ざるのみならず、財産の取得並管理其他一般法律行為をなすに際りても、種々支障不尠を以て、爰に社団法人に組織を改め、以て所期の目的を達成せむと欲するなり。